

平成29年度

埋蔵文化財調査年報



朝来市・音谷1号墳

平成30（2018）年10月

兵庫県立考古博物館

例 言

1. 本書は平成 29 年度に兵庫県教育委員会・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した埋蔵文化財調査事業にかかる年報である。
2. 発掘調査及び出土品整理については、兵庫県立考古博物館が調整業務を行い、兵庫県教育委員会から委託を受けた公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が実施した。それ以外の事業については兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが協力して実施した。
3. 「発掘調査の概要」は旧国別に編集し、摂津、播磨、但馬、淡路の順に掲載している。
4. 本文中の事業者および事業名は発掘調査実施当時の名称としている。
5. 本文中に使用した遺跡の位置図は、国土地理院発行の電子地形図 25000 を使用している。
6. 遺跡調査番号は各年度の調査毎に個別に付した番号であり、平成 29 年度は「2017」で始まる 7 桁の数字で表記している。
7. 本書は発掘調査成果を速やかに公表することを目的として刊行するものであり、調査成果についてはまだ十分な検討を終えていない。このため今後の出土品整理により、本書の記載内容と異なる検討結果が得られる可能性がある。その際は後日刊行される発掘調査報告書をもって内容の修正を行うものである。

目次

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

- 1 発掘調査事業の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 出土品整理事業の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4 調査一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 発掘調査事業の概要

- 1 塚口山廻遺跡（尼崎市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 皿辻遺跡（加古川市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 片山遺跡（加古川市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 4 宗佐遺跡（加古川市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 5 志染中梨木遺跡（三木市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 6 池ノ下遺跡（姫路市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- 7 前田遺跡（姫路市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- 8 中筋遺跡（姫路市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 9 福井池の下遺跡（相生市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
- 10 音谷1・3号墳（朝来市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
- 11 小垣谷遺跡（豊岡市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
- 12 小垣谷古墳群（豊岡市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
- 13 南構遺跡（豊岡市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
- 14 大木谷古墳群（豊岡市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
- 15 和泉谷・津原古墳群（新温泉町）・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
- 16 宮ノ谷遺跡（洲本市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

第3章 出土品整理事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

- 1 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
- 2 発掘調査の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
- 3 市町職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

- 1 現地説明会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
- 2 GENBAビューイングの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
- 3 発掘調査速報会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
- 4 ひょうごの遺跡の刊行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
- 5 バックヤード見学ツアーの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

1 調査の体制

平成24年度に埋蔵文化財調査部を県立考古博物館から（公財）兵庫県まちづくり技術センター（以下「センター」と言う。）へ移管して以来、国及び県が実施する開発事業に伴う調整、発掘調査計画の策定、事業地内の埋蔵文化財の状況を把握するための分布調査・確認調査・工事立会及び小規模な本発掘調査については県立考古博物館総務部埋蔵文化財課が担当し、大規模な本発掘調査及び出土品整理については県教育委員会から委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施している。

調査に従事した職員は、兵庫県立考古博物館が3名（総務部埋蔵文化財課）、センター埋蔵文化財調査部が14名（埋蔵文化財調査部調査課・整理保存課）である。以下で説明するように、平成29年度は大幅な事業量の増加が見込まれたため、県新規採用職員の派遣、センターでの県OB職員・臨時的専門職員の任用により、センター埋蔵文化財調査部の職員を増員して発掘調査体制を整えた。

センター埋蔵文化財調査部職員の内訳は、11名が県派遣職員、1名が県OB職員、2名が臨時的専門職員である。また出土品整理については、28名の整理技術嘱託員が接合・復元・実測・保存処理等の作業を担当した。

2 発掘調査事業の動向

近年、事業の中核となっていたNEXCO西日本による新名神高速道路建設に伴う発掘調査が平成27年度で完了し、北近畿豊岡自動車道など国関係の道路事業に進捗がなかったため、平成28年度は発掘調査量が激減し、平成以降最も少なくなったが、平成29年度は一転して大幅に増加している。これは国土交通省豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設や同姫路河川国道事務所による相生・有年道路建設、県東播磨県民局加古川土木事務所による東播磨道路建設など、高規格道路の工事が本格化し、これに伴う発掘調査が大幅に増加したことによる。国、県事業以外にも浜坂道路関連の事業として、新温泉町事業に伴う発掘調査の支援も実施している。

平成29年度に実施した調査は4の調査一覧のとおりである。内訳は本発掘調査が17件、分布調査が59件、確認調査が40件、工事立会が12件である。本発掘調査のうち14件はセンターが、3件については県立考古博物館が実施した。センターが受託した発掘調査の内訳は、国事業に伴う調査が6件、県事業に伴う調査が7件、市町事業（新温泉町）に伴う調査が1件、調査面積は19,773㎡である。

3 出土品整理事業の動向

出土品整理事業については県教育委員会からの委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施した。NEXCO西日本による新名神高速道路建設、国土交通省豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設、同兵庫国道事務所による西脇北バイパス建設など、過去の大型道路事業に伴う出土品整理を継続的に実施するとともに、姫路市への支援事業として駅前再開発や区画整理事業に伴う出土品整理を実施したため、ほぼ前年度並の事業量となった。

平成29年度に実施した出土品整理事業は18件、うち5件について発掘調査報告書を刊行した。内訳は国事業が5件、県事業が6件、NEXCO西日本事業が3件、市町事業（姫路市）が4件である。

4 調査一覧

本発掘調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2017001	小垣谷古墳群	豊岡市日高町赤布	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号日高豊岡南道路	H29.5.25 ~ H29.8.22	古墳時代中期～後期の3基の古墳群
2017002	小垣谷遺跡	豊岡市日高町赤布	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号日高豊岡南道路	H29.7.3 ~ H29.10.27	奈良時代～平安時代の集落遺跡
2017003	南橋遺跡	豊岡市日高町久斗・赤布	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号日高豊岡南道路	H29.4.10 ~ H29.7.21	弥生時代後期～平安時代の集落遺跡、古墳時代後期の古墳1基
2017004	片山遺跡	加古川市八幡町下村	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	H29.4.10 ~ H29.8.10	弥生時代中期、中世～近世の集落遺跡
2017005	皿辻遺跡	加古川市八幡町下村	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	H29.4.10 ~ H29.8.10	中世～近世の集落遺跡
2017006	和泉谷・津原古墳群	美方郡新温泉町戸田字和泉谷、三谷津原	新温泉町	新温泉町新築土処分場整備事業	H29.5.9 ~ H29.9.22	1～3号墳、5～11号墳を調査
2017007	大木谷古墳群	豊岡市日高町山本	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号日高豊岡南道路	H29.8.28 ~ H30.1.31	古墳時代前期～後期の18基の古墳群
2017009	中筋遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合付金事業	H29.12.20 ~ H30.3.6	縄文時代晩期～弥生時代前期の水田、中世の集落遺跡
2017010	前田遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合付金事業	H30.1.22 ~ H30.3.6	古墳時代、中世の集落遺跡
2017063	宗佐遺跡 (A地区)	加古川市八幡町宗佐	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	H29.4.10 ~ H29.8.10	弥生時代後期～古墳時代初頭、奈良時代～平安時代前期の集落遺跡
2017064	塚口山廻遺跡	尼崎市塚口本町	阪神南県民センター西宮土木事務所	都市計画道路事業(園田西武庫線)	H29.7.24 ~ H29.9.11	弥生時代～古墳時代の集落遺跡
2017065	志染中梨木遺跡	三木市志染町志染中	北播磨県民局加東土木事務所	(主) 三木三田線道路事故防止対策事業	H30.1.31 ~ H30.2.1	古墳時代の集落遺跡
2017078	池ノ下遺跡	姫路市苜編	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号姫路バイパス改築事業	H30.1.11 ~ H30.3.9	弥生時代後期、奈良時代～平安時代の集落遺跡
2017079	福井池の下遺跡	相生市若狭野町福井・若狭野	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	H29.12.18 ~ H30.3.6	弥生時代、古墳時代、中世の集落遺跡
2017093	宗佐遺跡 (B地区)	加古川市八幡町宗佐	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	H29.6.30 ~ H29.12.1	弥生時代後期～古墳時代初頭、奈良時代～平安時代前期の集落遺跡
2017095	宮ノ谷遺跡	洲本市上加茂	淡路県民局洲本土木事務所	(主) 洲本五色線道路改良事業	H29.8.1 ~ H29.9.1	室町時代の集落遺跡
2017104	音谷1号墳	朝来市立脇	但馬県民局養父土木事務所	(急) 上地(3)地区 急傾斜地崩壊対策事業	H29.10.4 ~ H30.2.16	2基の横穴式石室墳を調査

分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2017017		神崎郡福崎町福田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(砂) 福田川砂防堰堤工事	H29.5.23	埋蔵文化財なし
2017019		丹波市市島町中竹田字友政	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急治山事業	H29.5.10	埋蔵文化財なし
2017020		丹波市水上町絹山字北山	丹波県民局丹波農林振興事務所	林地荒廃防止事業	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017021		丹波市青垣町東芦田字芦生谷	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急治山事業	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017022		丹波市水上町賀茂	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 南田井川	H29.4.7	埋蔵文化財なし
2017023		丹波市青垣町小俣	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 小俣(2)地区	H29.4.11	埋蔵文化財なし
2017024		丹波市市島町上鶴阪	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 尾端(1)地区	H29.4.6	埋蔵文化財なし
2017025		丹波市水上町石生	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 石生南町地区	H29.4.11	埋蔵文化財なし
2017026		丹波市青垣町奥塩久	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 奥塩久西谷川	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017027		丹波市青垣町奥塩久	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 奥塩久谷川	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017029		篠山市岩崎	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 岩崎川	H29.4.6	一部に埋蔵文化財あり
2017030		篠山市波賀野	丹波県民局丹波土木事務所	河川事業	H29.4.6	一部に埋蔵文化財あり
2017031		姫路市継	中播磨県民センター姫路土木事務所	河川改修事業八家川調節池	H29.5.12	埋蔵文化財あり
2017032		赤穂市・赤穂郡上郡町西有年～竹万	西播磨県民局光都土木事務所	(主) 赤穂佐伯線道路改良事業	H29.7.3	埋蔵文化財なし
2017033		美方郡香美町小代区神水	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業 中道川	H29.4.26	埋蔵文化財なし
2017034		美方郡香美町小代区野間谷	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業 野間谷川	H29.4.26	一部に埋蔵文化財あり
2017035		美方郡香美町小代区平野	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業 平野川	H29.4.26	埋蔵文化財なし
2017036		美方郡香美町香住区上計	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業 上計川	H29.4.25 ~ H29.5.9	埋蔵文化財なし
2017037		美方郡新温泉町柳谷～居組	但馬県民局新温泉土木事務所	地域連携推進(道路改築)事業	H29.4.18 ~ H29.5.9	一部に埋蔵文化財あり
2017038		美方郡新温泉町小三尾	但馬県民局新温泉土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業小三尾地区	H29.5.9	埋蔵文化財なし
2017039		美方郡新温泉町熊谷	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業 奥川	H29.4.19	埋蔵文化財なし
2017040		美方郡新温泉町熊谷字柳谷口山	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	予防治山事業	H29.4.19	埋蔵文化財なし
2017041		豊岡市但東町三原字氏神	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	復旧治山事業	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017042		豊岡市但東町相田字寺谷	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	予防治山事業	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017043		豊岡市但東町相田字寺谷	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	県単独緊急防災事業	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017044		豊岡市但東町佐田字モノ谷	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	県単独緊急防災事業	H29.4.25	埋蔵文化財なし
2017045		豊岡市竹野町御又字猪ノ谷	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	予防治山事業	H29.4.14	埋蔵文化財なし
2017046		豊岡市日高町中	但馬県民局豊岡土木事務所	(一) 円山川水系 (砂) 中谷 (二)	H29.4.12 ~ H29.5.10	谷の塚古墳の存在を確認
2017047		豊岡市竹野町轟	但馬県民局豊岡土木事務所	(主) 日高竹野線 轟工区	H29.4.14	埋蔵文化財なし

分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2017048		養父市八鹿町舞狂	但馬県民局養父土木事務所	通常砂防事業（砂）若宮川	H29. 4. 20	一部に埋蔵文化財あり
2017049		養父市大蔵	但馬県民局養父土木事務所	土砂災害対策事業（砂）岩尾谷川	H29. 4. 20	北谷古墳の存在を確認
2017050		養父市長野	但馬県民局養父土木事務所	通常砂防事業（砂）柴川	H29. 4. 11	一部に埋蔵文化財あり
2017051		養父市轟	但馬県民局養父土木事務所	土砂災害対策事業（急）轟地区	H29. 4. 11	埋蔵文化財なし
2017053		養父市関宮町中瀬	但馬県民局養父土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 中瀬地区	H29. 4. 25	埋蔵文化財なし
2017069		赤穂市北野中	西播磨県民局光都土木事務所	千種川水系加里屋川広域河川改修事業	H29. 5. 17	埋蔵文化財なし
2017072		多可郡多可町加美区山寄上	北播磨県民局加東農林振興事務所	緊急予防治山事業	H29. 5. 26	埋蔵文化財なし
2017073		多可郡多可町加美区豊部久保ヶ谷	北播磨県民局加東農林振興事務所	緊急予防治山事業	H29. 5. 26	豊部境目谷散布地の存在を確認
2017077		洲本市池田字祈り尾谷ほか	淡路県民局洲本農林水産振興事務所	予防治山事業	H29. 6. 15	埋蔵文化財なし
2017080		宍粟市山崎町字矢原	西播磨県民局龍野土木事務所	矢原地区急傾斜地崩壊対策事業	H29. 6. 9	埋蔵文化財なし
2017081		宍粟市千種町西河内	西播磨県民局龍野土木事務所	通常砂防事業（砂）樋の谷川	H29. 6. 9	埋蔵文化財なし
2017082		宍粟市山崎町五十波字才ノ元	西播磨県民局光都農林事務所	予防治山事業	H29. 6. 9	埋蔵文化財なし
2017083		宍粟市山崎町五十波字大畑	西播磨県民局光都農林事務所	県単独緊急防災事業	H29. 6. 9	埋蔵文化財なし
2017084		佐用郡佐用町下秋里字今谷	西播磨県民局光都農林事務所	県単独緊急防災事業	H29. 7. 3	埋蔵文化財なし
2017085		佐用郡佐用町大畠字細田	西播磨県民局光都農林事務所	県単独緊急防災事業	H29. 7. 3	埋蔵文化財なし
2017086		三木市吉川町桃坂	北播磨県民局加東土木事務所	(主) 加古川三田線歩道設置事業	H29. 8. 24	埋蔵文化財なし
2017087	槻並・万善坑道群	川辺郡猪名川町万善	阪神北県民局宝塚土木事務所	(一) 淀川水系猪名川万善谷通常砂防事業	H29. 6. 14	槻並・万善坑道群の存在を確認
2017096		西脇市下戸田	北播磨県民局加東土木事務所	(国) 4 2 7 号(西脇道路)現道拡幅工事	H29. 8. 17	埋蔵文化財なし
2017097		養父市大屋町宮垣	但馬県民局養父土木事務所	通常砂防事業（砂）下宮垣川	H29. 8. 23	埋蔵文化財なし
2017098		朝来市多々良木	但馬県民局養父土木事務所	土砂災害対策事業（砂）下松尾谷川	H29. 8. 23	埋蔵文化財なし
2017105		姫路市白国5丁目600-1	陸上自衛隊姫路駐屯地業務隊	宿舍解体撤去	H29. 8. 29	埋蔵文化財なし
2017106	コンピラ山遺跡	赤穂郡上郡町山野里	西播磨県民局光都土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業丹東(2)地区	H29. 9. 13	コンピラ山遺跡の存在を確認
2017124	昆陽寺境内遺跡	伊丹市寺本2丁目他	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 1. 12	
2017124	前田遺跡	芦屋市前田町	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 1. 12	
2017124	津知遺跡	芦屋市津知町・川西町	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 1. 12	
2017124	深江北町遺跡	神戸市東灘区深江北町他	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 1. 12	
2017125	大田町遺跡	神戸市須磨区大田町	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 2. 9	
2017125	天神町遺跡	神戸市須磨区天神町	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 2. 9	
2017125	大蔵中町遺跡	明石市大蔵中町	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 2. 9	
2017126	長尾・沖田遺跡	佐用郡佐用町長尾	兵庫県立考古博物館	兵庫県内における古代官道に関する調査研究	H30. 2. 15	

確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2017094	豊部境目谷地区散布地	多可郡多可町加美区豊部	北播磨県民局加東農林振興事務所	緊急予防治山事業	H29. 8. 28	埋蔵文化財なし
2017011	北近畿No.28・29地点	豊岡市日高町山本	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道4 8 3号日高豊岡南道路	H29. 4. 18	耳谷草山古墳群・耳谷草山遺跡の存在を確認
2017012	音谷1号墳	朝来市立脇	但馬県民局養父土木事務所	(急) 上地(3)地区傾斜地崩壊対策事業	H29. 5. 10	音谷1号墳の存在を確認
2017013		篠山市泉	丹波県民局丹波土木事務所	歩道設置事業	H29. 4. 6	埋蔵文化財なし
2017014		洲本市上加茂	淡路県民局洲本土木事務所	主要地方道 洲本五色線 上加茂バイパス整備工事	H29. 4. 20	一部に古代～中世の集落遺跡の存在を確認
2017015		姫路市網干区高田～和久	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合交付金事業	H29. 5. 11	一部に埋蔵文化財を確認
2017016		加古川市別所町西脇	東播磨県民局加古川土木事務所	(一) 水田川広域河川改修事業	H29. 6. 6	埋蔵文化財なし
2017018	高坂遺跡	丹波市市島町中竹田	丹波県民局丹波土木事務所	(一) 由良川水系の貝川河川災害関連事業	H29. 5. 10	埋蔵文化財なし
2017028	中筋遺跡・前田遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線 社会資本整備総合交付金事業	H29. 12. 18	古墳時代～古代の集落遺跡の存在を確認
2017052		養父市大屋町加保	但馬県民局養父土木事務所	土砂災害対策事業（砂）府谷川	H29. 4. 25	埋蔵文化財なし
2017054	池ノ下遺跡	姫路市苦編	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号姫路バイパス改築事業	H30. 1. 16	埋蔵文化財なし
2017055		西脇市蒲江	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	西脇北バイパス蒲江地区改良工事	H29. 6. 5	埋蔵文化財なし
2017056		宍粟市波賀町赤西	林野庁近畿中国森林管理局兵庫森林管理署	赤西国有林1 2 0 1林小班の立木販売	H29. 5. 9	埋蔵文化財なし
2017057		加西市和泉町	北播磨県民局加東土木事務所	(一) 下滝野市川線 交通安全 歩道設置工事	H29. 6. 2	埋蔵文化財なし
2017058		加古川市宗佐(113地点2次確認)	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業	H29. 4. 27	一部に埋蔵文化財あり
2017059		加古川市宗佐(ノース北)	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業	H29. 6. 19	埋蔵文化財なし
2017060	正法寺古墳群・樫山古墳群	三木市・小野市別所町正法寺・樫山町	東播磨県民局加東土木事務所	東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業	H30. 1. 11	埋蔵文化財なし

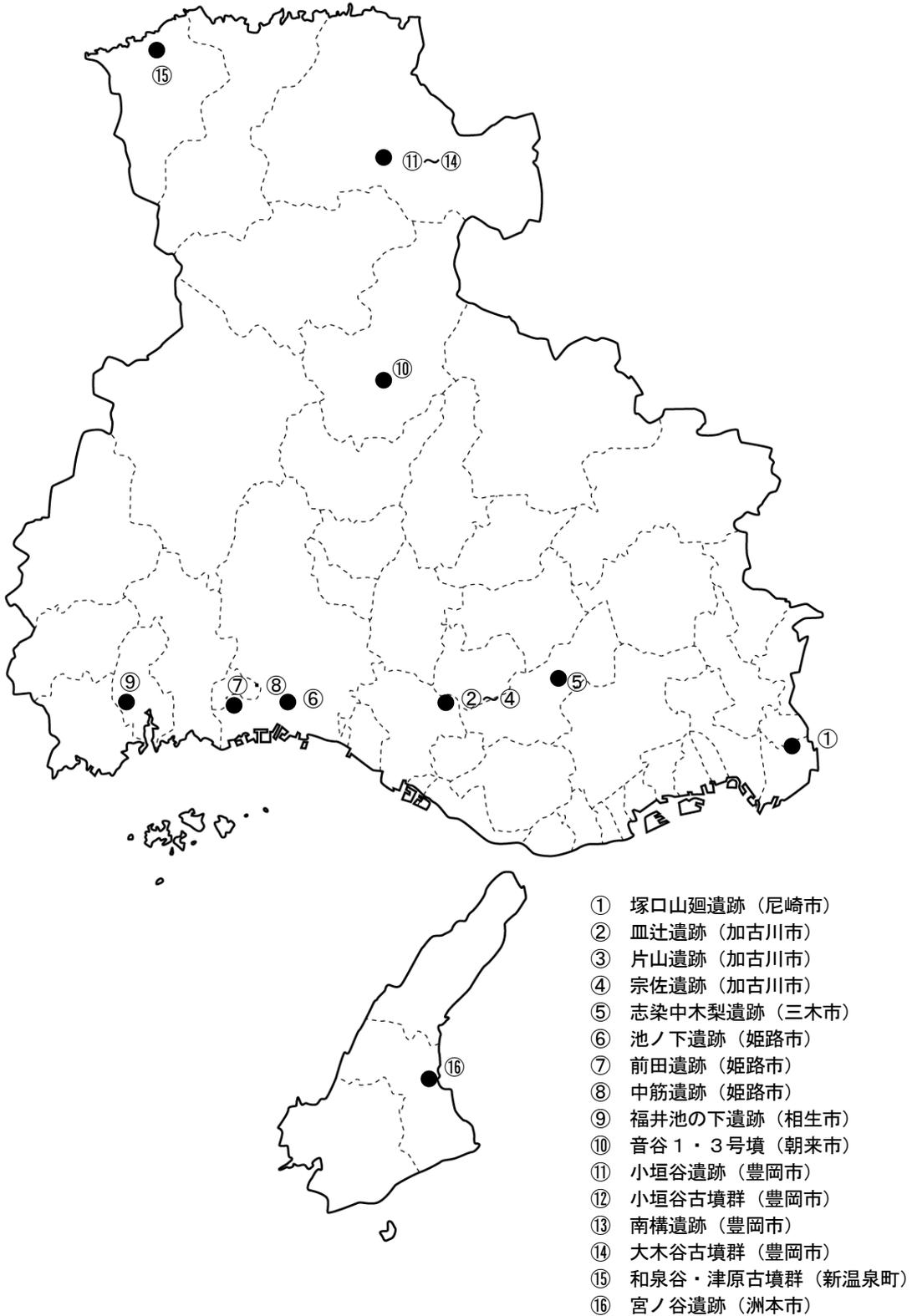
確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2017061		小野市榎山町	東播磨県民局加東土木事務所	県道加古川小野線（東播磨南北道路北工区）	H29. 8. 31 ~ H29. 8. 31	埋蔵文化財なし
2017062	緑ヶ丘群集墳	神戸市西区押部谷町福住字西山579-1	県土整備部住宅建築局公営住宅課	県営押部谷鉄筋住宅4号棟中層バリアフリー等改修他工事	H29. 8. 24 ~ H29. 8. 24	埋蔵文化財なし
2017071	池尻遺跡	淡路市志筑	淡路県民局洲本土木事務所	(主) 志筑郡家線 歩道設置工事	H29. 6. 1 ~ H29. 6. 1	埋蔵文化財なし
2017075	福井池の下遺跡	相生市若狭野町福井	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	H29. 9. 11 ~ H29. 9. 11	埋蔵文化財なし
2017076	有年牟礼・井田遺跡	赤穂市有年横尾	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	H29. 9. 13 ~ H29. 9. 13	埋蔵文化財なし
2017088	猪瀬遺跡	川辺郡猪名川町猪瀬	阪神北県民局宝塚土木事務所	県道切畑猪名川線道路改良工事	H29. 7. 10 ~ H29. 7. 10	埋蔵文化財なし
2017089		佐用郡佐用町久崎	西播磨県民局光都農林事務所	県単独緊急防災事業	H29. 7. 11 ~ H29. 7. 11	埋蔵文化財なし
2017090	大野遺跡	洲本市大野庄ヶ瀬	兵庫県警察本部総務部会計課	洲本警察署大野駐在所庁舎新築工事	H29. 9. 13 ~ H29. 9. 13	埋蔵文化財なし
2017100	豊林寺旧跡	篠山市福井字坂本	公益財団法人兵庫みどり公社北事務所	緊急防災林整備（溪流対策）Ⅲ期	H29. 9. 14 ~ H29. 9. 14	埋蔵文化財なし
2017102		西脇市市原町・大木町・前島町	北播磨県民局加東土木事務所	（一）中安田市原線 交差点改良事業	H30. 1. 9 ~ H30. 1. 18	一部に埋蔵文化財あり
2017103	才村遺跡	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	広畑青山線道路改良事業	H29. 12. 4 ~ H29. 12. 15	一部に埋蔵文化財あり
2017107	海軍操練所跡	神戸市中央区新港町16-1	阪神高速道路株式会社 神戸管理部	管理用建物駐車場その他整備工事（29-沖・湾岸）	H29. 9. 20 ~ H29. 9. 21	埋蔵文化財なし
2017108		洲本市宇山地区	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	国道28号洲本バイパス事業	H30. 2. 14 ~ H30. 2. 16	一部に埋蔵文化財あり
2017110		揖保郡太子町糸井	西播磨県民局龍野土木事務所	太子御津線 社会資本整備総合交付金事業	H30. 1. 30 ~ H30. 1. 31	埋蔵文化財なし
2017111		六栗市千種町千草	西播磨県民局龍野土木事務所	国道429号（防災・安全交付金事業）歩道設置工事	H29. 12. 19 ~ H29. 12. 19	埋蔵文化財なし
2017113		三田市下相野	阪神北県民局宝塚土木事務所	総合流域防災事業	H29. 11. 1 ~ H29. 11. 1	埋蔵文化財なし
2017114	明石城本丸跡	明石市明石公園389番1	兵庫県土整備部住宅建築局営繕課	県立図書館耐震補強その他工事	H29. 11. 7 ~ H29. 11. 7	埋蔵文化財なし
2017116	多々良跡	姫路市夢前町宮置字清兵衛山453-25、字タラ谷199-3	中播磨県民センター姫路農林水産振興事務所	県単独防災緊急防災事業	H30. 1. 31 ~ H30. 1. 23	多々良跡の存在を確認
2017118	伽耶院東遺跡	三木市志染町大谷	兵庫県北播磨県民局加古川流域土地改良事務所	農村地域防災減災事業	H30. 2. 15 ~ H30. 2. 15	埋蔵文化財なし
2017120	福島・龍王谷遺跡	三田市福島	阪神北県民局宝塚土木事務所	国道176号線歩道拡幅工事	H30. 1. 26 ~ H30. 1. 26	埋蔵文化財なし
2017121	城山遺跡	揖保郡太子町鶴	西播磨県民局龍野土木事務所	防災・安全交付金事業（国）179号（太子道路）	H30. 2. 13 ~ H30. 2. 13	埋蔵文化財なし
2017122	城山遺跡	揖保郡太子町鶴たつの市菅田町福田	西播磨県民局龍野土木事務所	防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業	H30. 2. 7 ~ H30. 2. 8	一部に埋蔵文化財あり
2017123	東本町遺跡	南あわじ市福良字垣ノ内甲530	兵庫県警察本部総務部会計課	南あわじ警察署福良警部派出所解体工事・福良交番新築工事	H30. 3. 22 ~ H30. 3. 22	埋蔵文化財なし

工事立会

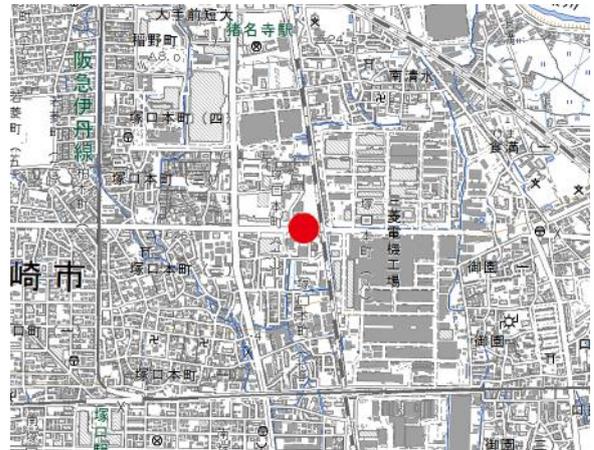
遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2017066	奥山刻印群	芦屋市奥山1-7	阪神南県民センター西宮土木事務所	（一）奥山精道線道路防災工事	H29. 5. 18	埋蔵文化財なし
2017070	奥山刻印群	芦屋市奥山1	阪神南県民局西宮土木事務所	（一）奥山精道線道路防災工事	H29. 5. 18	埋蔵文化財なし
2017074	明石城武家屋敷跡	明石市天文町2-7-2	国土交通省近畿地方整備局宮繕部技術・評価課	神戸地方・家庭裁判所明石支部外溝等工事	H29. 6. 20	埋蔵文化財なし
2017091	東灘区№24遺跡	神戸市東灘区本山町中野476-1・476-3	国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所	本山北地区斜面対策工事	H29. 7. 10	埋蔵文化財なし
2017092	東灘区№25遺跡	神戸市東灘区本山町中野476-1	国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所	本山北地区斜面対策工事	H29. 7. 10	埋蔵文化財なし
2017099	保久良神社遺跡	神戸市東灘区本山町北畑字ザクガ原657-12, 23, 25, 27, 680-1	国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所	保久良地区斜面対策（その3）工事	H29. 9. 15	埋蔵文化財なし
2017101	北条遺跡	姫路市北条1丁目83番地4	林野庁近畿中国森林管理局兵庫森林管理署	地下埋設物調査	H29. 10. 25	埋蔵文化財あり
2017109	明石城武家屋敷跡	明石市桜町	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	国道2号明石駅前交差点情報ボックス新設他工事	H29. 9. 20	江戸時代の城下町
2017112	遠阪遺跡	丹波市青垣町山垣	丹波県民局丹波土木事務所	道路安全施設整備工事	H29. 10. 13 H30. 1. 22	中世～近世の集落跡
2017115	尼崎城跡	尼崎市築地	阪神南県民センター尼崎港管理事務所	（一）淀川水系 庄下川 護岸補強工事	H29. 12. 25	埋蔵文化財なし
2017117	善定遺跡	たつの市新宮町善定字家ノ奥ほか	兵庫県みどり公社（兵庫県西播磨県民局光都農林新港事務所）	里山防災林整備	H30. 1. 15	埋蔵文化財なし
2017119	明石公園遺跡	明石市明石公園389番1	兵庫県土整備部住宅建築局設備課	県立図書館改修工事に伴う外灯取替え工事及び工事用電源用引込柱設置	H30. 1. 19	埋蔵文化財なし

第2章 発掘調査事業の概要



1 塚口山廻遺跡

所在地 尼崎市塚口本町6丁目
 事業者名 兵庫県阪神南県民センター
 西宮土木事務所
 事業名 都市計画道路事業園田西武庫線
 担当者 中川渉・上田健太郎
 種別 本発掘調査
 期間 平成29年7月24日～7月28日
 9月4日～9月11日
 面積 140㎡



遺跡の位置（「伊丹・大阪西北部」）

1 調査に至る経過

三菱電機の工場の敷地を貫通する事業地内には「池田山古墳（県遺跡地図番号：030037）」「塚口山廻遺跡（県遺跡地図番号：030109）」が存在し、延べ180mほどの区間が本発掘調査の対象となっている。事業の進捗に伴い県教育委員会では、これまでに2回の本発掘調査を実施してきた。今回は前年度に続いて、JR福知山線の西側に接した区間について、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

前年度調査区の東辺と南辺に接したL字形の範囲を調査した。検出した遺構には柱穴、溝、土坑がある。溝SD01は前年度調査区からの延長で、古墳時代後期（6世紀前半）の須恵器が多数出土した。また柱穴の一部は、前年度に検出した柱穴と組み合わせあって掘立柱建物として復原できた。柱穴内の遺物のごくわずかであるが、弥生時代後期末頃の甕の底部が出土している。

3 まとめ

2箇年度の調査によって、弥生時代～古墳時代にかけての集落の一端が判明した。北東—南西方向の溝SD01をはさんで、両側に6棟の掘立柱建物が復原できる。溝の方向と平行するSD01西側の2棟は古墳時代後期の可能性が考えられる。SD01東側の3棟は軸線方向を共有する一連の建て替えによるものとみられ、出土遺物を参考にすると、弥生時代後期末までさかのぼる可能性がある。



平成29年度調査2区全景（西から）



調査区全体図

2 皿辻遺跡

所在地 加古川市八幡町下村
 事業者名 兵庫県東播磨県民局
 加古川土木事務所
 事業名 東播磨南北道路北工区
 (主要地方道加古川小野線) 道路改築事業
 担当者 久保弘幸・新田宏子
 種別 本発掘調査
 期間 平成 29 年 4 月 10 日～8 月 10 日
 面積 331 m²



遺跡の位置（「三木」）

1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町下村において、東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業をおこなっている。当該事業地では、平成 28 年度に兵庫県教育委員会がおこなった確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなったため（遺跡調査番号：2016048）、平成 29 年度に本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

現代の水田造成時に、遺跡に伴う古土壌層は完全に削平されていた。調査の結果、土坑・畦畔遺構およびこれに伴う溝が検出された。土坑はいずれも不整形なもので、遺物の出土がなく、所属時期を特定できない。畦畔遺構および溝は、調査区南西に始まり、大きく屈曲して調査区北壁に至る。溝内および畦畔盛土中から、少数の江戸時代末～近代初頭の陶磁器類、東播系中世須恵器の細片などが出土した。

3 まとめ

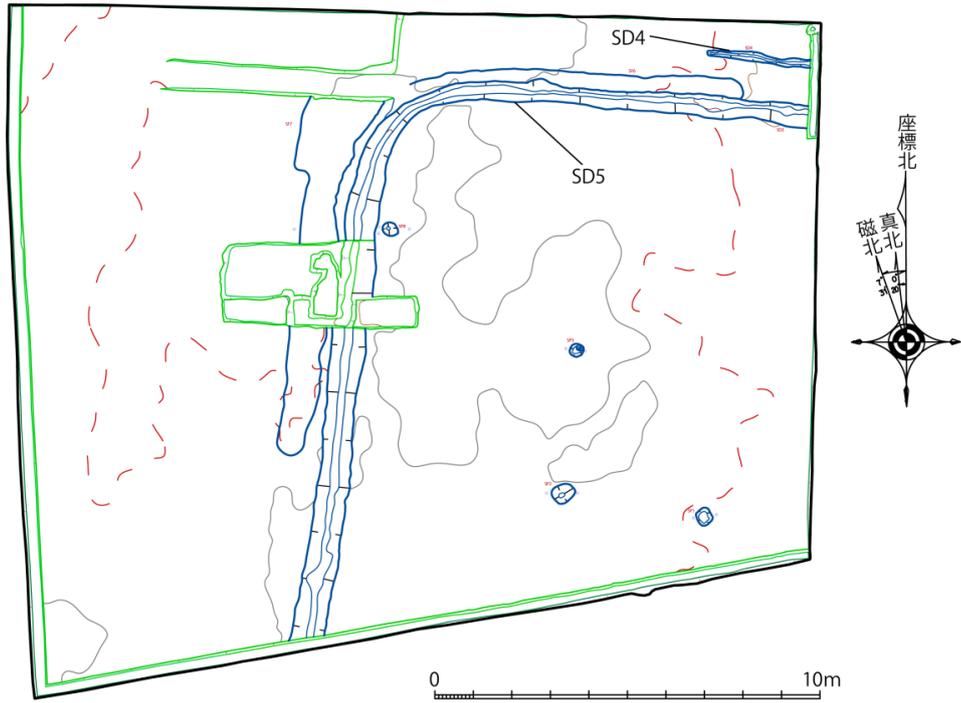
今回の調査では、少数ながら土坑、畦畔遺構および溝が検出された。出土した遺物量はわずかであったが、皿辻遺跡で検出された遺構群は、中世以降江戸時代間に形成されたものと思われる。



遺跡周辺の景観（西から）



調査区全景（北から）



調査区全体図

かたやま
3 片山遺跡

遺跡調査番号 2017004

所在地 加古川市八幡町下村
事業者名 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所
事業名 東播磨南北道路北工区
(主要地方道加古川小野線) 道路改築事業
担当者 久保弘幸・新田宏子
種別 本発掘調査
期間 平成 29 年 4 月 10 日～8 月 10 日
面積 765 m²



遺跡の位置 (「三木」)

1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町下村において、東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業をおこなっている。当該事業地では、平成 28 年度に兵庫県教育委員会がおこなった確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなったため（遺跡調査番号:2016048）、平成 29 年度に本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査の結果、掘立柱建物跡・溝・土坑等が検出された。掘立柱建物跡は北側の B 地区を中心とする範囲に広がっている。B 地区北東側で少なくとも 4 間×5 間、B 地区南西側で少なくとも 6 間×7 間の範囲を占め、南側の A 地区にも広がっていた。掘立柱建物跡の柱穴からは、江戸時代と思われる磁器片がわずかに出土している。柱穴の規模、広がり、柱間などから、通常の建物跡ではなく、農業に関する施設の可能性が想起される。

B 地区北壁側～北東壁側付近では、不整形な溝状の凹部が、等間隔に並ぶように 4 条検出された。いずれも幅と比較して浅く、底面は緩やかな凹面をなしている。溝内からは弥生時代中期の土器が出土しており、この時期の遺構であることは疑いない。しかしながら、遺構の性格については判断する材料に欠ける。その他の土坑・溝からは、中世～近世の遺物が出土している。

3 まとめ

今回の調査では、弥生時代中期の溝・土坑、中世～近世の溝・土坑、近世以降の掘立柱建物跡等が検出された。また、これらの時期の遺物のほか、わずかではあるが奈良時代の須恵器、後期旧石器時代のナイフ形石器が出土している。

以上の成果から、片山遺跡では後期旧石器時代に人の活動が開始され、その後、弥生時代中期、奈良時代、中世～近世と、断続的に遺構・遺物が残されていることが明らかとなった。



調査区全景（南から）



SX25 内の弥生土器出土状況（南から）



調査区全体図

4 宗佐遺跡

所在地 加古川市八幡町宗佐
 事業者名 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所
 事業名 東播磨南北道路北工区
 (主要地方道加古川小野線) 道路改築事業
 担当者 村上泰樹・久保弘幸・新田宏子
 種別 本発掘調査
 期間 【A地区】
 平成29年4月10日～8月10日
 【B地区】
 平成29年6月30日～12月1日
 面積 【A地区】1,038㎡ 【B地区】3,110㎡



遺跡の位置（「三木」）

1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町宗佐において、東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業をおこなっている。当該事業地では、平成28年度に兵庫県教育委員会がおこなった確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなったため（遺跡調査番号：2016157）、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

宗佐遺跡は、東～北側に広がる中位段丘面の開析谷に形成された、緩やかな傾斜をもつ扇状地上に立地する。扇状地の主軸は北から南へ延びており、扇状地末端部より南には加古川が形成した沖積平地が広がり、低湿地へと続く。平成29年度の調査区のうち、A地区は扇状地末端部付近に、B地区は扇状地中位～末端部にあたる。扇状地末端部に近づくほど堆積物は厚く、遺跡形成時の古土壌層（遺物包含層）がよく保存されていた。

古土壌層は上下2層に分けられる。下層は黒褐色の礫混じりシルト混砂を主体としており、弥生時代末～古墳時代初頭の遺物を包含する。上層は灰褐色～黄灰色の礫混じりシルト混砂を主体としており、奈良時代～鎌倉時代の遺物を包含する。いずれの古土壌層も、遺物の密度はきわめて高かった。

遺構面は、上下2面がそれぞれの古土壌層直下で検出された。

【上層遺構面】

A地区の上層遺構面では、掘立柱建物跡2棟が検出された。掘立柱建物跡のうち1棟は、東西5間（約12m）×南北3間（約6m）の大型の建物跡である。柱穴の一边が最大で1.1mを超え、一部の柱穴では最大径が35cmを超える柱根が遺存していた。他の1棟は南北4間（約7.5m）×東西2間（約3.2m）を測る。

この2棟は建物の北辺をそろえて、ほぼ正しく東西、南北を長軸に建てられており、建築上の企画性が強く看取される。柱穴内からの出土遺物は僅少であったが、上層遺構面に伴う古土壌層より、須恵器転用硯、少数の瓦を含む奈良時代～平安時代前期の遺物が出土していること、建物跡に隣接する柱穴

(SP79) より、当該時期の須恵器がまとまって出土していること等から、掘立柱建物跡2棟は、奈良時代～平安時代前期に属すると判断した。

B 地区の上層遺構面では、少なくとも8棟の掘立柱建物跡が検出された。しかし B 地区の柱穴数は1,000 基に達しており、調査時に識別し得なかった建物跡も多いと考えられる。掘立柱建物跡のほとんどは、出土遺物から平安時代後期～鎌倉時代に属すると考えられる。また柱穴内に土器を埋設した事例が複数検出されているが、中でも P35 では、土師器の托 8～9 点を重ねたような状況で出土した。

また上層遺構面のうち、B 地区の南側約 1/3 の範囲は、鎌倉時代以降の水田面となっており、下層の遺構面は存在しなかった。この領域は、下層遺構面形成期には低湿地であったと思われる。

注目される出土遺物として、奈良時代～平安時代初頭に属する須恵器風字硯、内面に水銀朱が付着した須恵器転用硯、墨書土器（須恵器：判読不能）がある。また、多数の瓦を出土した土坑も検出されている。

【下層遺構面】

下層遺構面では、竪穴建物、溝、土坑等が検出された。

竪穴建物は調査区の中でも高位の場所を中心に分布する。A 地区東端で1棟、B 地区北端で3棟、B 地区中央付近西端で1棟の、合計5棟が検出された。1棟を除き、いずれも方形規格の建物跡である。1棟は六角形と推定される多角形状をなす。建物跡の規模は、方形建物の場合一辺が4m 前後を測るものと、6～7m を測るものが見られる。建物跡の遺存状況は概ね良好で、特に B 地区では検出面からの深さが60 cmに達する例が見られた。

土坑からの出土遺物は多くないが、A 地区の土坑（SK165）では、完形近くにまで復元可能な、甕・鉢・高杯等が合計10 個体前後まとまって出土している。

3 まとめ

今回の調査では、上下2面の遺構面から合計1,000 基を超える遺構が検出された。上層遺構面は奈良時代～平安時代初頭および平安時代後期～鎌倉時代、下層遺構面は弥生時代後期後半～古墳時代初頭にあたる。遺構密度は B 地区においてより高く、扇状地の中でも高位の場所に遺跡の中枢が存在しているものと推定される。

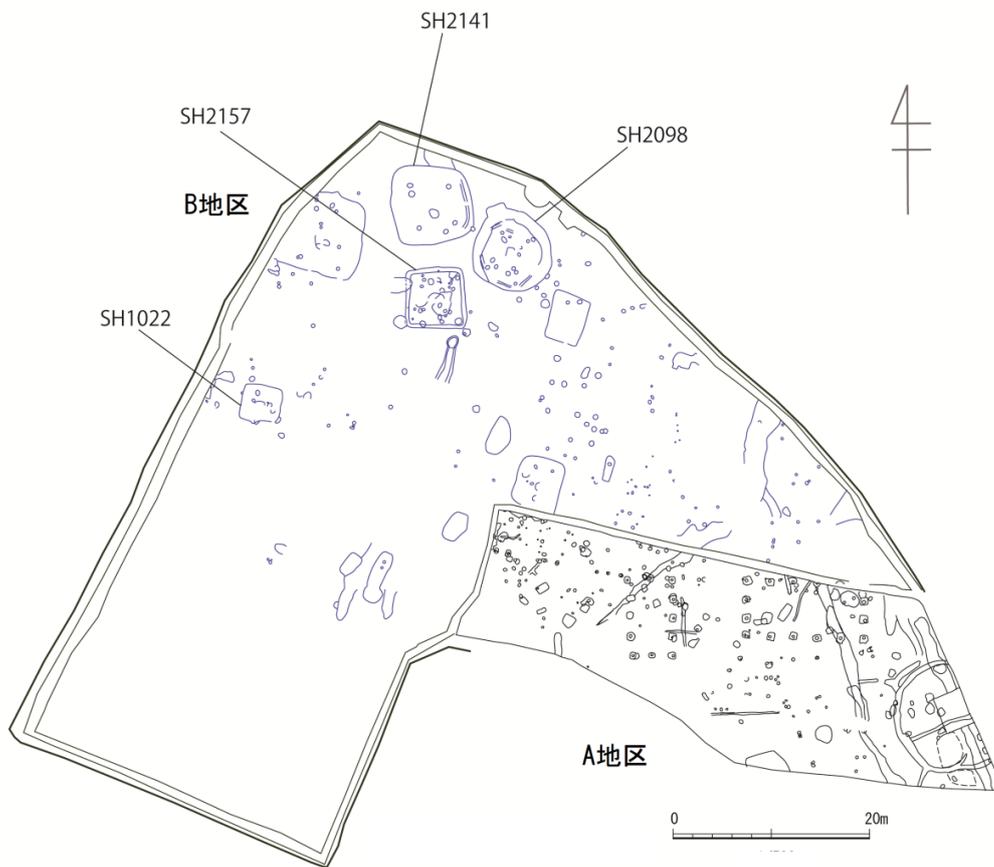
上層遺構面で出土した須恵器風字硯および須恵器転用硯は、奈良時代～平安時代初頭の本遺跡の性格を示す資料であるが、特に朱墨を磨ったと考えられる水銀朱の付着した転用硯は、県下でも5遺跡ほどの出土例しかなく、かつそのうち3例は、但馬国府、播磨国府および官衙関連遺跡からの出土であることから、宗佐遺跡 A 地区で検出された掘立柱建物跡の性格を考える上で、重要な資料になるものと思われる。

上層遺構面において高い密度で検出された平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物跡群は、集落跡と評価される。しかし、一般的に出土数の少ない托を多数出土しており、この点での特異性は指摘しておきたい。

下層遺構面は、弥生時代後期後半～古墳時代の集落遺跡と推定される。低所に位置した A 地区と比較して、B 地区では明らかに遺構密度が高まっていることから、集落中枢部に近いと判断される。出土遺物からは、同じ東播磨地域に所在する大中遺跡とほぼ同時期と考えられる。



上層遺構面全体図



下層遺構面全体図



A 地区上層遺構面（空中写真）



遺跡周辺の景観（南から）



B 地区上層遺構面（南東から）



A 地区下層遺構面土坑内遺物出土状況



B 地区下層遺構面竪穴建物跡（南東から）

しじみなかなしのき
5 志染中梨木遺跡

遺跡調査番号 2017065

所在地 三木市志染町志染中
事業者名 兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
事業名 (主) 三木三田線道路事故防止対策事業
担当者 長濱誠司
種別 本発掘調査
期間 平成30年1月31日～2月1日
面積 28 m²



遺跡の位置（「淡河」）

1 調査に至る経過

標記事業の事業地内において、兵庫県教育委員会が平成28年度に実施した確認調査によって遺構を検出した。工事工程の都合により同年12月に、A～C地区の本発掘調査を先に実施した。今回は、調査未実施箇所（D～F地区）について本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査箇所は志染川北岸に形成された河岸段丘の南縁部で、調査によって竪穴住居跡・柱穴群・土坑などが見つかった。

D地区の西端部では、B地区において検出した竪穴住居跡の延長とみられる遺構の輪郭を検出した。

E地区南半部では炭が集積した不整形の浅い掘り込みを検出した。これはA地区の土坑SK02と同類の遺構の可能性はある。また北半部にはB地区にまたがって分布する柱穴群が存在し、掘立柱建物を構成するものと考えられる。

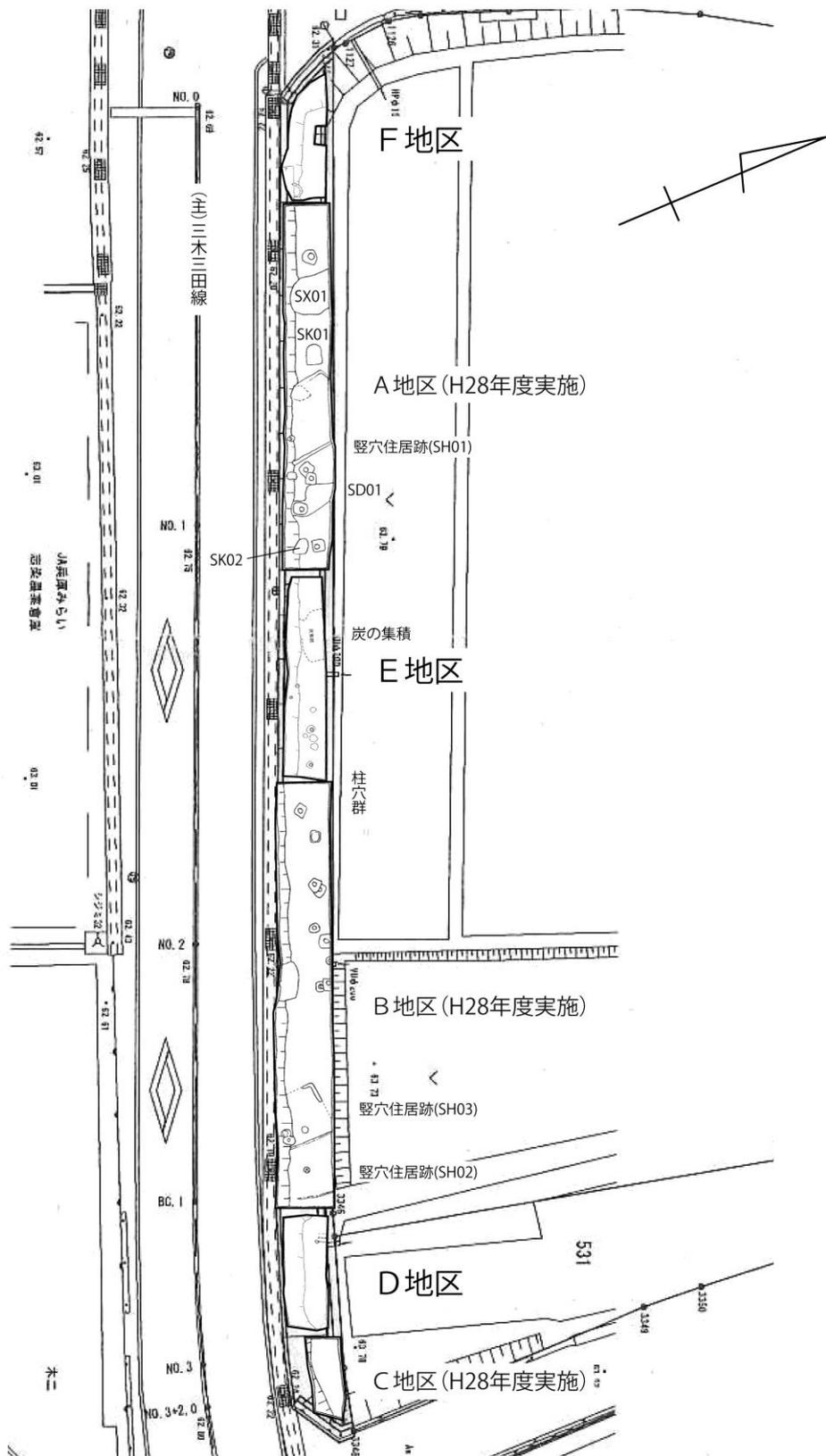
出土遺物は少量であるが、古墳時代後期の須恵器が出土している。

3 まとめ

前回と今回の調査成果を総合すると、竪穴住居跡・掘立柱建物跡の存在を確認し、古墳時代後期を中心とする時期の集落遺跡の一部が明らかとなった。



E地区全景（東から）



調査区全体図

いけのした 6 池ノ下遺跡

所在地 姫路市苜編
 事業者名 国土交通省 近畿地方整備局
 姫路河川国道事務所
 事業名 一般国道2号姫路バイパス改築事業
 担当者 西口圭介・西山昌孝
 種別 本発掘調査
 期間 平成30年1月11日～3月9日
 面積 280㎡ (A地区190㎡・B地区90㎡)



遺跡の位置（「姫路南部」）

1 調査に至る経過

本遺跡については一般国道2号姫路バイパス改築事業に伴い、平成19年度に対象地の一部の本発掘調査を実施している（遺跡調査番号 2007107）。今回、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所からの依頼を受け、平成19年度調査区に隣接するA・B2地区の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

【A地区の調査】 平成19年度に調査した1区の西側に位置する。支流性扇状地の末端に位置しており、洪水砂礫を挟んで上下2面に分かれる。

（第1面の遺構） 弥生時代末から平安時代後期の遺構を検出した。

弥生時代末の溝SD69 北東から南西へ流れ、調査区を横断した状態で検出した。幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。多量の土器を包含しており、至近に同時期の集落が存在すると考えられる。

奈良時代の掘立柱建物跡SB01・SB02 調査区南西部分から掘立柱建物跡2棟を検出した。何れも桁行は正方位に近い南北方向をとる。SB01は東西2間（4.5m）・南北3間（5.0m）を測る総柱建物跡である。柱穴は一边70cm前後の方形である。SB02は東西2間（4.5m）・南北4間（8.0m）を測る側柱建物跡である。柱穴は一边60cm前後の方形である。

平安時代後期の柱穴群 奈良時代の建物の東側を中心に200基近い柱穴を検出した。複数棟の掘立柱建物が存在したと考えられる。白磁端反り碗・須恵器碗・土師器皿が柱穴内より出土しており、主に12世紀代の建物群と考えられる。

（第2面の遺構） 調査区南東端において粘土採掘坑群を検出した。複数回の掘削が認められ、採掘坑中からは弥生時代後期の土器が出土している。

（出土遺物） 上面からは弥生時代末の甕等、8世紀前半から中頃の須恵器杯・稜碗、緑釉陶器碗、平瓦片、平安時代後期の土師器皿・須恵器碗、中



A地区掘立柱建物跡 SB01・02（南から）

国製白磁玉縁碗・白磁端反り碗のほか、華南産灰釉陶器壺片などが出土している。下層の遺構からは弥生時代後期の甕・高杯などが出土している。

【B地区の調査】 平成19年度2・3区の間を設定した。上下2面の調査を行い、水田・溝を検出した。

（第1面の遺構）水田畦畔、溝1条を検出した。遺構は3段階に細分でき、第1段階は主軸をやや東に振った畦畔で構成される。第2段階は主軸をやや北西に振る畦畔と中央では大きく主軸を北にとる水田で構成され、東側には畦畔を伴ったSD1001があり方形区画の水田が復元できる。第3段階は畦畔状の高まりを確認したが、明確な水田の形態、規模は不明である。

（第2面の遺構）水田14枚、水口2基、溝2条を検出した。水田の規模は小さく2.1㎡から2.6㎡を測る。やや南へ曲がるSD2002に沿って配置されている。SD2002は幅約0.85m、左右に畦畔を伴い畝畝と考えられ、水口SX2003・SX2004がとり着く。

3 まとめ

A地区からは弥生時代後期から末、奈良時代から平安時代後期にかけての遺構・遺物が検出された。

弥生時代後期の遺構は粘土採掘坑群の一端を検出し、A地区南東隅から平成19年度1区にいたる部分に広範囲に粘土採掘坑が広がっていたことが判明した。

弥生時代末の溝には多量の土器が含まれており、周辺に同時期の集落が存在する可能性が高くなった。

奈良時代の遺物は平成19年度1区から多量に出土していたが、今回の調査で遺構が確認できた。正方位を指向する掘立柱建物跡2棟は方形の大型柱穴をもち、うち総柱建物跡SB01は倉庫などの性格が考えられる。周辺の調査では須恵器円面硯・墨書土器・唐三彩弁口壺などが出土しており、調査地点の北側山麓には正方位の条里型地割が残っている。これらの状況から周辺に官衙遺跡が存在する可能性が高く、今回の調査で検出された建物跡・遺物から、当地点がその末端に当たる可能性が浮上した。

平安時代後期の集落遺構は、県下での出土例が少ない華南産灰釉陶器壺片が複数個体分出土している点から見て、一般の集落ではなく、在地領主クラスの集落（屋敷地）が存在した可能性がある。

B地区では、遺構の時期を示す遺物は出土しなかったが、平成19年度の調査成果（2007057）から第1面の水田は古墳時代ごろ、第2面の水田は弥生時代後期ごろと考えられる。|



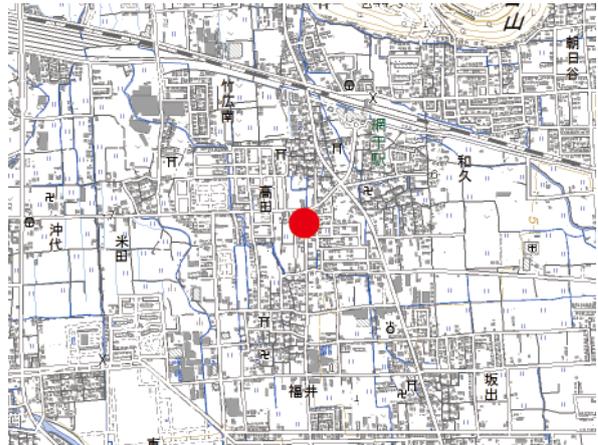
B地区第1面 東から



B地区第2面 東から

まえだ 7 前田遺跡

所在地 姫路市網干区高田
 事業者名 兵庫県中播磨県民センター
 姫路土木事務所
 事業名 (主) 太子御津線社会資本整備
 総合交付金事業
 担当者 久保弘幸・新田宏子
 種別 本発掘調査
 期間 平成30年1月22日～3月6日
 面積 450 m²



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所は、姫路市網干区高田において（主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業として、立体交差によるバイパス道路の整備を行っている。当該事業地では、平成26年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査（遺跡調査番号：2014016）の結果、遺跡が存在することが明らかとなった。平成29年10月4日付け中播（姫土）第5184号で兵庫県中播磨県民センター一長からの依頼を受けた兵庫県教育委員会からの受託により、本発掘調査を実施した。なお前田遺跡については、平成28年度にも本発掘調査を実施しており（遺跡調査番号：2016150）、今年度は第2回目の本発掘調査となる。

2 調査の概要

調査区は南北に長い道路予定地である。遺構は調査区北半で密度が高く、古墳時代と推定される掘立柱建物跡1棟、竪穴建物跡1棟が検出されたほか、中世と推定される掘立柱建物跡1棟、所属時期不明の畦畔遺構およびこれに付随する耕作溝などが検出された。調査区南半では柱穴が散漫に検出されたほか、古墳時代の井戸1基が検出された。

【古墳時代の遺構】

掘立柱建物は、直径が60cm前後の不整形の柱穴から成る。調査区内では南北4間、東西1間分が検出されたが、建物はさらに調査区外西側へ広がるものと思われる。

竪穴建物跡は調査区東壁沿いに位置する。約1/2が調査区外東側にあるため、正確な規模は不明であるが、西辺は約4mを測る。正方形と推定され、建物内床面からは土師器高杯、甕等が出土している。

井戸は長径が1.8mを測る楕円形の掘方を持ち、検出面からの深さは約1.3mを測る。井戸内の上部約2/3ほどには、人為的に埋置されたと考えられる多数の土器類が認められ、滑石製白玉も出土したことから、井戸を廃する際に祭祀が行われたと推定される。

井戸内の土器は、まず大型の須恵器甕を、口縁部を下にして井戸中央に据え、その周囲に土師器壺、甕、高杯、須恵器無蓋高杯等を配置して最下段としている。その上位に須恵器大甕を取り巻くように土師器壺、甕を置き、さらに上位には土師器甕および装飾付須恵器（壺）を置く。最上部には須恵器大甕を覆うように、土師器甕、高杯、須恵器甕、杯、有蓋高杯等を配置する。滑石製白玉は最上部の埋土中

より4点が出土した。

また井戸最下底からは、上述の土器類とは別に土師器壺・甕各2点が出土した。最下底で出土した土師器壺は、炭素を全面に吸着させ、器表にヘラミガキを施した特異なものである。

さらに、井戸埋土からは、韓式系土器の小片2点が出土している。

上述のような状況から、井戸内では井戸の廃絶にあたり丁寧な祭祀が行われたと考えられる。また祭祀の時期は、出土した土器の型式から、5世紀末前後と推定される。

装飾付須恵器が井戸廃絶の祭祀に用いられた事例は、県下では認められず、全国的にもきわめて希少な事例と思われる。また装飾付須恵器の形態は壺の肩部に5点の子壺を飾るものであるが、この子壺の体部間に棒状の粘土を貼り付けて繋ぐという、他に例を見ないものである。

【中世の遺構】

掘立柱建物跡は、直径40cm程の円形・楕円形の柱穴から成る。柱間は梁行2間以上、桁行3間の建物であったと推測される。建物の軸線は、ほぼ正方位を向いている。

3 まとめ

今回の調査では、古墳時代および中世の遺構群が検出された。遺構密度は調査区北半で高く、遺跡の中心部は調査区北部から北側へ広がる可能性がある。

古墳時代の井戸については、出土した遺物に韓式系土器が含まれること、きわめて特異な形態の装飾付須恵器を出土したこと、この装飾付須恵器を井戸廃絶時の祭祀に用いていることが明らかとなり、本遺跡が所在する中播磨から西播磨地域の古墳時代史に、特筆すべき事例として記載される成果を挙げることができた。井戸北側の掘立柱建物と竪穴建物についても、ほぼ同時期の遺物が出土しており、前田遺跡周辺一帯が5世紀末の古墳時代の集落遺跡が広がっている可能性が高いと判断される。

中世の建物跡については、今回の調査区の南側で平成28年度に調査したB区（遺跡調査番号：2016150）において検出された掘立柱建物群と同じ方向を向いて建てられており、同一の方向意識のもと建物が建てられたとみられる。南側から今回の調査区にかけて、中世の集落遺跡が広がっていることがわかった。



調査区全景（南から）



掘立柱建物跡（南から）



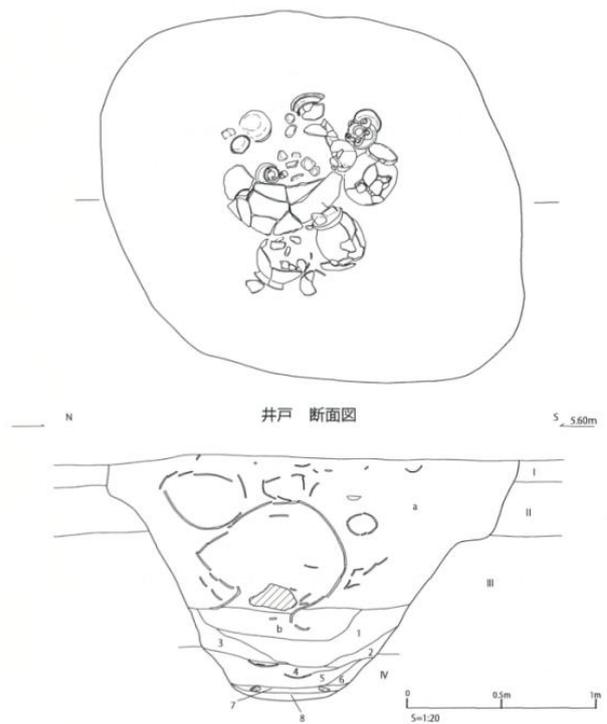
調査区全体図



調査区全景（空中写真）



SE105 出土装飾付須恵器



SE105 遺物出土状況（第2面）・断面図



竪穴建物跡 (SH82) 内の遺物出土状況



調査区南端部の遺構群 (北西から)



井戸 (SE105) の遺物出土状況 (第1面)



井戸 (SE105) の遺物出土状況 (第2面)



井戸 (SE105) の遺物出土状況 (第2面)



井戸 (SE105) の遺物出土状況 (第4面)



井戸 (SE105) の遺物出土状況 (第5面)

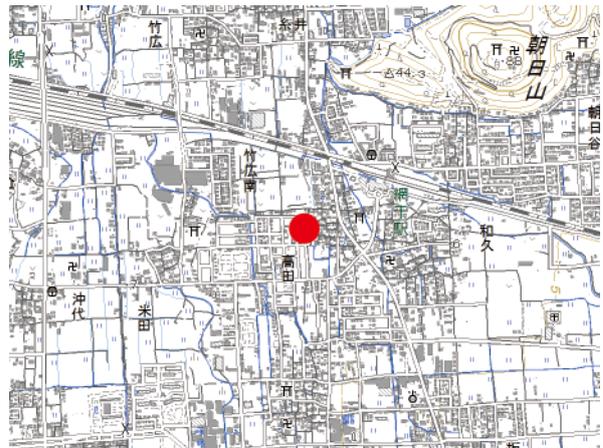


井戸 (SE105) の遺物出土状況 (最下面)

なかすじ

8 中筋遺跡

所在地 姫路市網干区高田
 事業者名 兵庫県中播磨県民センター
 姫路土木事務所
 事業名 (主) 太子御津線
 社会資本整備総合交付金事業
 担当者 久保弘幸・新田宏子
 種別 本発掘調査
 期間 平成 29 年 12 月 20 日
 ～平成 30 年 3 月 6 日
 面積 249 m²



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民局姫路土木事務所は、姫路市網干区高田において（主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業により、主要地方道太子御津線の、太子町糸井～姫路市網干区和久間の交通渋滞解消のため、立体交差によるバイパス道路の整備を行っている。当該事業地では、平成 26 年度に県教育委員会が行った確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなったため、本発掘調査を実施した。

遺跡周辺は住宅地であり、一括して調査が実施できないため、今年度は、2 区・4 区について調査を実施した。

2 調査の概要

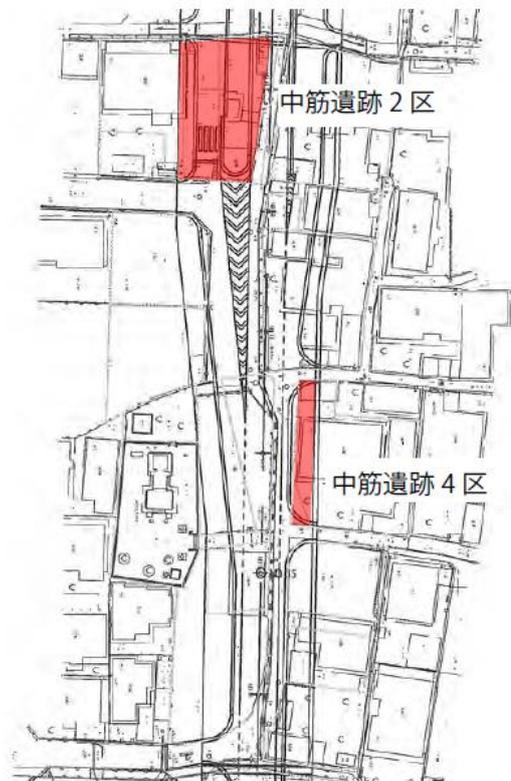
【上層遺構】

2 区の上層遺構面では、中世（平安時代末～鎌倉時代）の溝状遺構が検出された。調査区東壁沿いを北東～南西に延びており、溝内からは少数の遺物が出土した。他に土坑・柱穴が散漫に検出された。

4 区では中世と思われる柱穴・溝が検出され、少量の遺物が出土した。

【下層遺構面】

2 区の旧河道 1 条と水田と推定される面を検出した。旧河道は調査区東～南壁に延びる。調査区内ではその北西側がとらえられたのみであり、幅は不明である。河道埋土中からは少量の弥生土器（中期）が出土している。河道の北西側では、水田面と推定される古土壌層が検出された。古土壌層は細粒の洪水砂に被覆されており、古土壌層上面に密接した状態で縄文土器と思われる土器片 1 点が出土した。



調査区位置図

3 まとめ

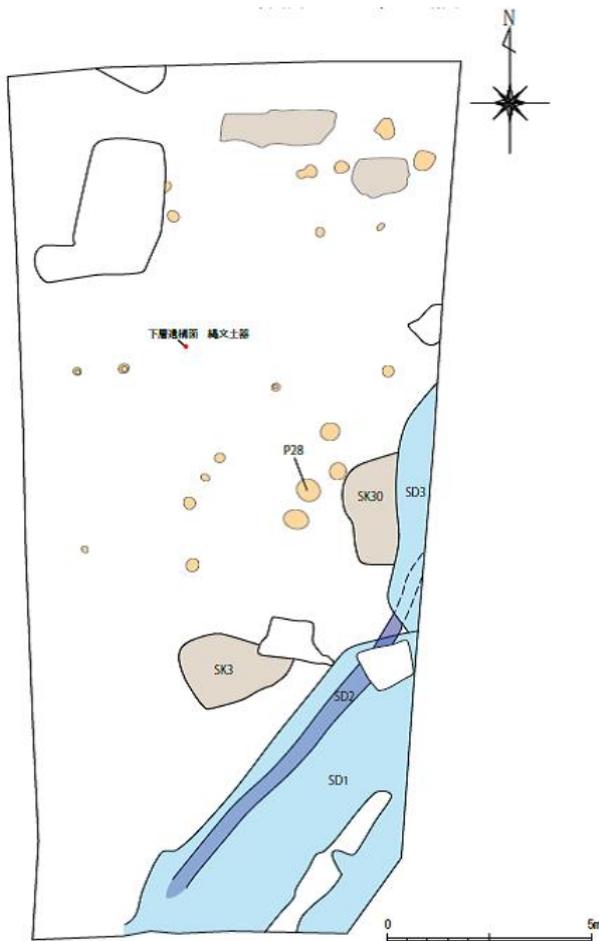
今回の調査では、縄文時代晩期～弥生時代前期および中世の遺構群が検出された。遺構密度は調査区全域にわたって低く、遺跡（集落跡）の中核部からはやや離れた様相を示している。しかし下層遺構面において、縄文時代晩期～弥生時代前期の水田面を検出できたことは、鍛冶田遺跡から連続する下層遺構面がさらに広がっている可能性を示すものである。



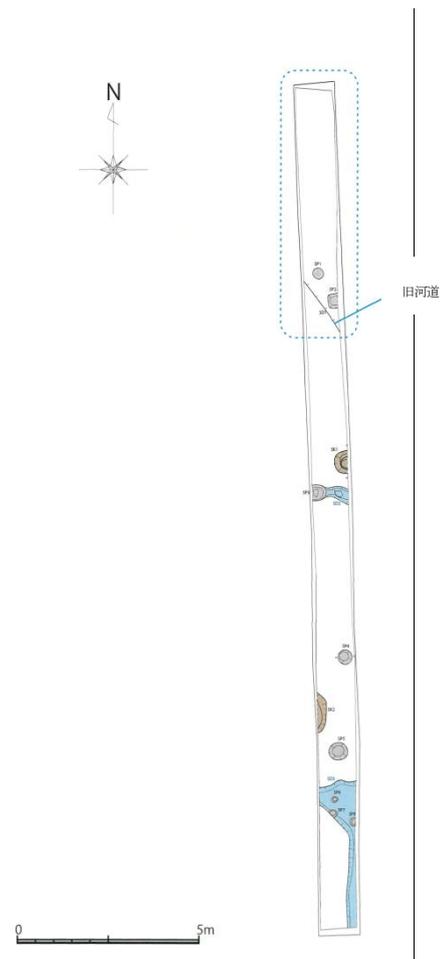
2区上層遺構面全景（南から）



2区下層遺構面全景（北から）



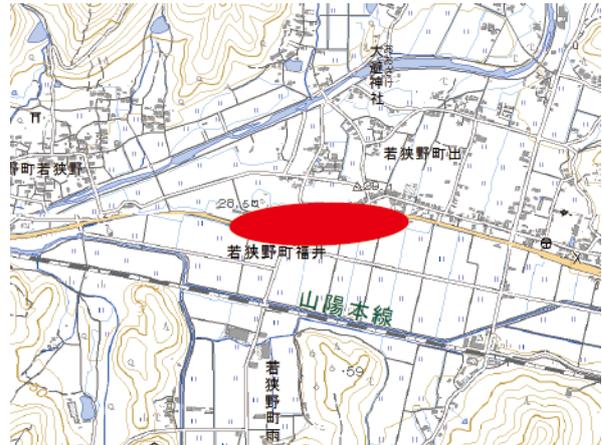
2区 上・下層遺構全体図



4区全体図

9 福井池の下遺跡

所在地 相生市若狭野町福井・若狭野
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局
 姫路河川国道事務所
 事業名 一般国道2号相生有年道路改築事業
 担当者 別府洋二・山田清朝
 藤原怜史・森田昇太郎
 種別 本発掘調査
 期間 平成29年12月18日
 ～平成30年3月6日



調査面積 2,054 m²

遺跡の位置（「二木・相生」）

1 調査に至る経過

福井池の下遺跡は、千種川に東から合流する矢野川の流域に広がる盆地状地形の平地に立地し、昭和57年度に圃場整備に伴って一部調査が行われている。当該事業地においては、平成24・27年度に県教育委員会が行った確認調査の結果、一部に遺跡が存在することが明らかとなり、西からA～D地区として本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査地点周辺は圃場整備等により大きく改変されており、特に集落が立地するような微高地の削平が著しく、遺構の残存状況は非常に浅い。

【A地区】古墳時代後期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、弥生時代の溝や円形の土坑が検出された。竪穴住居は方形を呈し、北側の壁面に竈址と思われる焼土を伴うものが多い。復元できた掘立柱建物は2×2間や2×3間の側柱建物である。弥生時代の溝はA地区の中央で検出されたが、溝以西では検出される遺構が非常に少なくなる。溝の埋土からは流水があったと推測され、西側で地形は低くなる。円形の土坑は礫層とシルト層の境界部分に掘削されており、水溜井戸としての機能が考えられる。

【B地区】A地区の東に続くB地区では、古墳時代の方形竪穴住居跡等が検出されたが、遺構密度は低い。シルト層部分に掘削された長方形の土坑は瓦粘土採掘のための土坑で、近年まで採掘が行われていたらしい。やや湾曲した工具痕が残り、近代のガラス瓶などが出土している。

【C地区】B地区から約250m東に離れたC地区でも、十数基もの粘土採掘坑が検出されたが、その中で東西方向に長い土坑3基は砂利で埋められており、出土した唐津焼等の遺物から江戸時代前期まで遡るものと推定できる。検出できた柱穴から3棟の掘立柱建物が復元でき、一部には柱根の木材が残っていた。出土した遺物には須恵器は含まれておらず、弥生時代に属する可能性がある。調査区の東端では南東方向に下る地形を検出し、多量の弥生土器が木製品などを伴って出土する土器溜まりを検出した。弥生時代中期中頃を主体とする土器群で、ミニチュアやジョッキ形土器などの特殊なものも含まれている。

【D地区】国道2号の北側に位置するD地区では、薄い包含層下で柱穴などが検出されたが、その所属時期は不明である。他の地区で検出された柱穴とは埋土が異なり、包含層から出土する遺物も奈良時代

から中世前半のものを多く含んでいることから、奈良時代以降のものと思われる。この地区で検出された地形も南側が下がっており、C地区との間に谷状地形が広がる可能性を示している。

弥生時代の遺構はA地区及びC地区で検出されたが、A地区では溝と水溜井戸と思われる土坑、C地区では掘立柱建物址や土器溜まりが検出され、広い範囲に集落が広がっていることが推測できるが、竪穴住居址は確認できなかった。集落の縁辺部の可能性が高い。出土土器は中期中頃から後半のものが多く、一部後期後半のものが認められる。

古墳時代の遺物は広い範囲で出土するが、竪穴住居址はA地区及びB地区で検出できた。古墳時代後期に属する方形の竪穴住居で、竈と思われる焼土を伴う。周辺で復元できた掘立柱建物址も同じく古墳時代後期のものであろう。古墳時代の集落は調査範囲の西半部に広がるものと推定できる。

奈良時代から平安時代にかけての遺物は少ないが、C・D地区から出土しており、北東側に同時期の集落が広がる可能性を示している。

3 まとめ

弥生時代・古墳時代の遺構が検出できたが、集落の中心部ではなく、縁辺部に当たると想定される。

【弥生時代】C地区の土器溜まりから多器種にわたる大量の弥生時代中期の土器が石器や木製品を伴って出土しており、近隣にかなりの規模の集落の存在することを示しているが、今回の調査では住居跡は確認できなかった。一部には後期頃の土器も出土している。

【古墳時代】A・B地区で竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されており、西半部に中心があることが想定される。出土した土器から見ると、古墳時代後期の中でもやや年代幅があり、一定期間集落が継続して営まれていたことを窺わせている。

【奈良時代・平安時代】出土遺物が激減するが、D地区からは比較的大きな破片が出土しており、D地区で検出された柱穴等は同時期のものの可能性がある。

【鎌倉時代・室町時代】調査範囲内では生活の痕跡が薄く、水田・畑地として利用されていたものと思われる。

【江戸時代】耕作地下の粘土を瓦作りに利用した粘土採掘坑がB・C地区で検出された。一部は江戸時代初期の17世紀前半にまで遡りうる遺構であり、その営みは近現代まで続くものである。

相生市域の矢野川流域における発掘調査例は少なく、弥生時代・古墳時代の集落の様相が確認できた意義は深い。



調査区遠景（手前A地区）

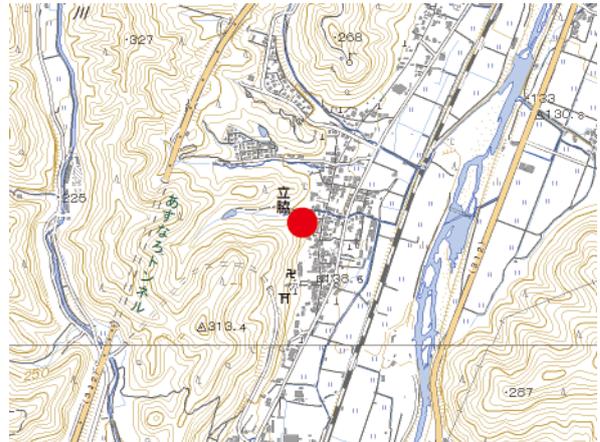


C地区土器溜まり

おんたに

10 音谷1・3号墳

所在地 朝来市立脇
 事業者名 兵庫県但馬県民局 養父土木事務所
 事業名 (急)上地(3)地区急傾斜地崩壊対策事業
 担当者 村上泰樹・岸本一宏・西山昌孝・
 森田昇太郎
 種別 本発掘調査
 期間 平成29年10月4日
 ～平成30年2月16日
 面積 320㎡



遺跡の位置（「但馬竹田・但馬新井」）

1 調査に至る経過

事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である「音谷1号墳」や「福本遺跡」が存在している。県教育委員会では平成26年の分布調査で音谷1号墳周辺に遺跡が存在する可能性が高いと判断し、平成29年に確認調査を実施した。その結果、石室天井石の巨岩が露出している音谷1号墳では、古墳周溝と墳丘が確認され、周溝からは須恵器臚（はそう）が出土したため本発掘調査を実施した。

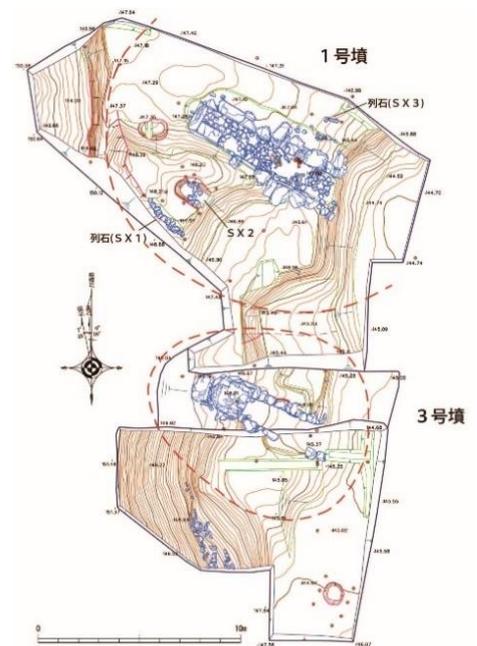
2 調査の概要

音谷1・3号墳は、立脇集落の西側丘陵裾に位置し、1号墳の現況では、4×2.6mの巨石が表面よりやや浮いた状態で存在しており、一見して横穴式石室の天井石であることが判断できた。また、石室は天井石直下まで土砂で埋まっていた。事業の擁壁線はちょうどこの石室の南壁部分にあたり、工事の際に石室壁を破壊することになるが、石室南壁調査のためには石室の外側まで掘削する必要があった。そこで、地権者も含めた協議の結果、工事用地範囲を超えた南西側の丘陵斜面部分まで掘削範囲を広げて石室の調査を終了させることとなった。

【音谷1号墳】

墳丘は推定長径18m、短径約14mの楕円形と想定され、石室の南側と北東側で墳丘内列石の一部（SX1・3）が残存していた。内部施設は無袖式の横穴式石室で、前庭部はすでに無くなっていたものの、床面での残存長は最大8.35m、床面での石室幅は最大1.7m、奥壁では1.55m、床面から天井石下面までの最大高は1.95mもあり、大型の石室となっていた。また、南北両側の壁体には、玄門立柱石を設けて玄室部分と羨道部分を分けており、玄門より奥壁までの長さ6.0mの玄室にあたる部分の床には、10～40cm大で扁平な川原石の亜円礫を敷き、奥の南西隅には凝灰岩製の箱式石棺を安置していた。

棺内は上端まで土砂で埋まっていたが、副葬品は遺存していなかった。ただし、底には木炭を約1.5cmの厚さに敷き、その上に火



調査区全体図

葬された人骨が置かれていた。この埋葬の時期は不明であるが、平安時代初期に石室が再利用されていることから、その時期に棺内にも埋葬を行った可能性がある。

石室は平安時代初期の9世紀に再利用され、3～4箇所の火葬骨の集積が認められた。なお、石室前部の埋土からは、中世の土器も出土した。

副葬品には銀の装飾大刀の一部や馬具・鉄鏃・刀子などがあり、須恵器長頸壺も羨道部の壁ぎわに残存していた。馬具では鉸具や辻金具、留金具のほか、類例の少ない渦卷文杏葉が多数出土したが、轡や雲珠・鞍金具などは出土しなかった。

【音谷3号墳】

1号墳の南側で新たに発見した無袖式横穴式石室墳である。石室の規模は残存長7.4m、幅は奥壁部分で1.0m、中央部付近で1.2mを測る。石室の高さは1.6m前後である。石室奥壁際から開口部に向かって3mの範囲には厚さ15cmの扁平な石を用いた敷石が認められた。

石室内から須恵器高杯、杯身などの土器のほか、鉄製の大刀、刀子、石突、鏃をはじめ金銅製・銅製の鞘金具が出土したが、馬具類は出土していない。

古墳の墳丘は今回の調査では明らかにできなかったが、1号墳南側の周溝を共有すると考え、幅10m前後の楕円形を呈すると思われる。



1号墳の石室と渦卷文杏葉

3 まとめ

今回調査をおこなった音谷1号墳は、古墳時代後期の7世紀前半に築造された横穴式石室墳で、墳丘の遺存状態は良くなかったが、楕円形の墳丘であったと想定される。また、3号墳も同年代に築造されたと思われるが、初葬年代は3号墳が1号墳よりも若干降る可能性を考えておきたい。

音谷1号墳の墳丘と石室の規模は、他の古墳と比べても規模の大きな部類に属し、石室基底石に使用された石材も長さ1.5m程度の巨大なものであった。副葬品のうち、馬具は種類が限られていたものの、朝鮮半島南部からの渡来系文物であるとの評価もある、特殊な形の渦卷文杏葉があったこと、装飾大刀が副葬されていたこと、巨大な石材を使用した大きな石室を構築していたことから、被葬者が上位に属するクラス層の人物であったことがうかがえる。その被葬者は、古代律令制下における「郡」の長(郡司)に次ぐ階層が想定でき、例えば「郷」の長クラスであった可能性があろう。

一方、音谷1号墳の南隣にある同時期の3号墳は、幅1mの無袖式横穴式石室で、同時期の県内の他の古墳と比較するとやや小さめの規模となっており、石室に使用された石材も小さめである。副葬品には金の装飾大刀の一部分・鉄鏃・鉄刀などが残っていたが、馬具は認められなかった。馬具をもたないという点において1号墳の被葬者よりも下位層であったことが窺えるが、1号墳に近接して築造され、石室開口方向も3°しか変わらず、装飾大刀も有していたことから、同族集団に属していたことはほぼ間違いなであろう。

こがきだに

1 1 小垣谷遺跡

所在地 豊岡市日高町祢布
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局
 豊岡河川国道事務所
 事業名 一般国道 483 号日高豊岡南道路
 担当者 別府洋二・山田清朝・藤原怜史・
 森田昇太郎
 種 別 本発掘調査
 期 間 平成 29 年 7 月 3 日～10 月 27 日
 面 積 2,256 m²



遺跡の位置（「江原」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による一般国道 483 号日高豊岡南道路（北近畿豊岡自動車道）の建設に伴い、県教育委員会が平成 21 年度に分布調査を、平成 23 年度に確認調査を実施した。その結果、事業地内に遺跡が存在することが明らかになったため、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

豊岡市日高町にある祢布集落から北へ祢布川を遡り、谷の本流から西へと枝分かれした最大幅約 40m の狭小な谷の中に小垣谷遺跡は立地する。遺跡では、谷の斜面を段状に削り、あるいは盛土して平坦面を形成し、そこに柱穴や溝、土坑などの遺構が作られている。

検出できた柱穴群からは、2 棟の掘立柱建物（2 間×3 間）が復元できる。掘立柱建物の時期は、整地層より出土している土器から平安時代と考えられる。また、直径



小垣谷遺跡（中央）と小垣谷古墳群（右）（北東から）

20cm を超える柱根も出土しているが、建物は復元できず、時期も不明であった。山側の斜面と整地した平坦面との間に設けられた溝には、杭列や石列によって護岸がなされていた。溝の埋土や上層の包含層からは、奈良時代から平安時代の土器が多数出土した。

山側の斜面や谷本流への開口部付近では、地山のシルト層を削って平坦面を複数作り出しており、掘立柱建物が検出できたほか、曲物や矢板を使用した溜井を検出した。溜井の周辺からは丹塗り土器や黒色土器が出土しており、時期は奈良時代に遡るものと思われる。

遺跡から出土する遺物は弥生時代から平安時代のものであり、中でも奈良時代から平安時代の遺物が

主体をなす。土師器の甕・鍋・竈といった煮炊具、須恵器の甕などの貯蔵具、土師器・須恵器の杯などの供膳具が多く出土している。また、緑釉陶器や灰釉陶器が出土しているほか、漆付着土器や鞆羽口、陶製紡錘車なども出土した。

3 まとめ

今回の調査で、狭小な谷の中に集落が営まれていたことが判明した。出土した土器の量から、遺跡の時期は奈良時代から平安時代が主体であることがわかる。平安時代、遺跡の周辺には国府や国分寺・国分尼寺が造営され、但馬の中心地として栄えた。第二次但馬国府は延暦23年(804年)に日高の地に移されたとされ、推定地である祢布ヶ森遺跡は小垣谷遺跡から南へ約800mの位置に所在している。小垣谷遺跡での活動が活発化する時期も、これらの時期と一致している。一方で、小垣谷遺跡では飛鳥時代や奈良時代の土器や遺構も確認できており、周辺地域が但馬の中心となる以前からの集落であることがわかる。

遺跡から出土する土器は、煮炊き具や貯蔵具など生活色の強いものが目立つ。その中に緑釉陶器や鞆羽口などが含まれる一方、木簡や墨書土器、専用硯などが出土していないことは遺跡の性格を考える上で興味深い。また、量は少ないながらも弥生時代中期の土器や、古墳時代前期の土器も出土している。



調査区全景 (東から)



掘立柱建物 (南から)



杭列で護岸された溝 (南東から)



土器出土状況 (南東から)

1 2 小垣谷古墳群

所在地 豊岡市日高町祢布
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局
 豊岡河川国道事務所
 事業名 一般国道 483 号日高豊岡南道路
 担当者 別府洋二・山田清朝・藤原怜史・
 森田昇太郎
 種 別 本発掘調査
 期 間 平成 29 年 5 月 25 日～8 月 22 日
 面 積 1,018 m²



遺跡の位置（「江原」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による一般国道 483 号日高豊岡南道路（北近畿豊岡自動車道）の建設に伴い、県教育委員会が平成 21 年度に分布調査を、平成 23 年度に確認調査を実施した。その結果、3 基の古墳の存在が明らかとなったため、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

【古墳】

尾根上に築かれた 3 基の古墳を調査した。古墳は尾根の先端から順に、16・17・18 号墳である。

16 号墳

尾根斜面を急角度に削り、その下方に半円形の平坦面を設けている。古墳の背後には、直線状の溝が設けられている。主体部は尾根直交方向に軸をもち、平坦面の尾根先端側に設けられている。埋葬施設は箱式石棺である。石棺には 5 枚の板石で蓋がなされており、蓋石の裏面には赤色顔料が塗布されていた。石棺の規模は、内法で長さ 1.9m、深さ約 30 cm である。棺幅は南側で 0.5m、北側で 0.4m を測る。石棺は南側の小口石を設置後、それに接する長側石から順に北側へと設置している。棺の底には小礫が敷かれていた。棺内には刀 2 本、刀子 2 本、鉄鏃の束が副葬品として納められていた。副葬品は全て切先や鏃先端を北側小口へと向けており、頭位は南であったと考えられる。墳頂部からは、須恵器高坏や土師器坏が出土している。土器の特徴から、古墳の時期は古墳時代中期末ごろと考えられる。

17 号墳

尾根斜面を急角度に削り、その下方に半円形の平坦面を設けている。主体部は尾根直交方向に軸をもち、平坦面の尾根先端側に設けられている。墓壙の底がわずかに残存するのみであった。墓壙の残存状況から、墳丘の大部分は流失してしまったと考えられる。17 号墳から流れ込んだと考えられる須恵器が 16 号墳周溝から出土している。土器の特徴から、古墳の時期は古墳時代後期前葉と考えられる。

18 号墳

尾根斜面を急角度に削り、その下方に半円形の平坦面を設けている。古墳の背後には、直線状の溝が設けられている。主体部は尾根直交方向に軸をもち、平坦面の尾根先端側に設けられている。割竹形木棺が納められていた。副葬品はなく、古墳の周囲からも遺物は出土していないため、時期は不明である。

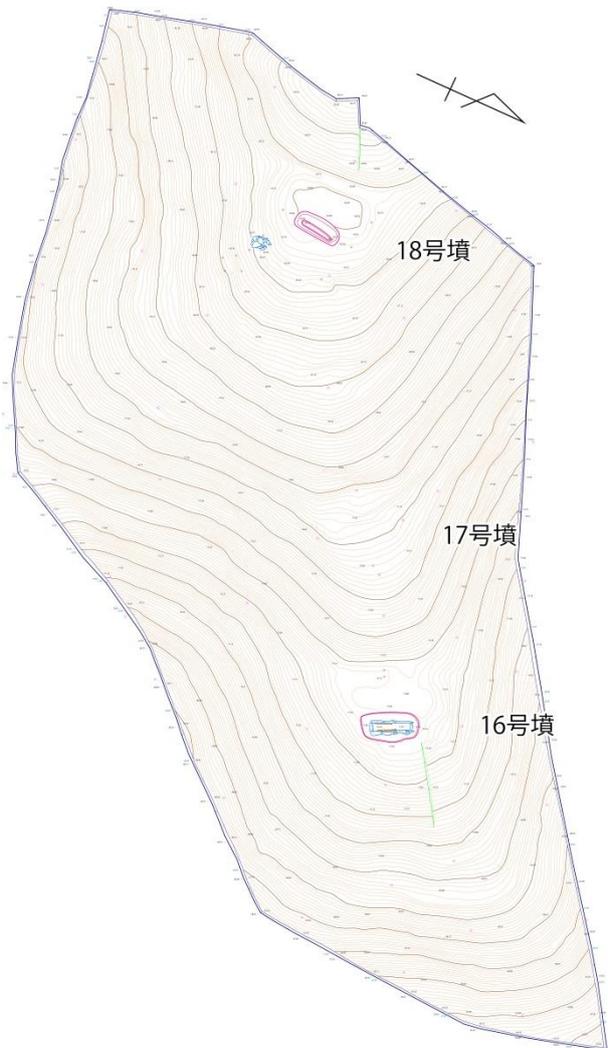
【集石遺構】

18号墳墳丘南側斜面で、礫の集中する箇所を2箇所検出した。調査区内に自然石がほぼ見られないため人為的に集められたものと考えられるが、遺物の出土もなく、時期や性格については不明である。

3 まとめ

今回調査した3基の古墳では、尾根を急角度に削り、半円形の平坦面を造り出す点、尾根直交方向に軸を設ける点、主体部が平坦面の尾根先端側に片寄った位置に配置される点が共通して確認できた。また、遺存状態の良好な16・18号墳では、古墳の背面に溝を設ける点や平坦面の規模も共通している。墳丘の特徴や主体部の配置の類似性から、墳丘の大部分が流失してしまったと考えられる17号墳でも同様の特征を持ち合わせていた可能性が想定できる。

古墳の時期については、出土した土器から古墳時代中期末から古墳時代後期前葉と考えることができ、最も眺望のよい尾根の先端に16号墳が築かれ、その後奥に向かって古墳が築造された可能性が窺える。



調査区全体図



16号墳 石棺と出土遺物

1 3 南構遺跡

所在地 豊岡市日高町久斗・祢布
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局
 豊岡河川国道事務所
 事業名 一般国道 483 号日高豊岡南道路
 担当者 別府洋二・山田清朝・藤原怜史・
 森田昇太郎
 種別 本発掘調査
 期間 平成 29 年 4 月 10 日～7 月 21 日
 調査面積 991 m²



遺跡の位置（「江原」）

1 調査に至る経過

一般国道 483 号日高豊岡南道路建設に伴う南構遺跡の調査は、平成 23 年度の確認調査を経て、平成 25 年度より本発掘調査が実施されてきており、縄文時代早期から中世までの集落址や古墳時代後期の古墳群等が見つかっている。今回の調査は同事業における南構遺跡の発掘調査の最終年度であり、調査範囲は工事対象地区の東端部にあたる。現有の国道 482 号旧道の北側を I 地区、南側を J 地区としている。

2 調査の概要

【I 地区】

多くの柱穴や土坑の他、竪穴住居状の方形落ち込みも検出されており、集落が広がっていることが確認された。出土した遺物は奈良時代から平安時代のものを主としており、弥生時代や古墳時代後期のもも含まれている。柱穴内から朱墨の付着した須恵器坏蓋の転用硯が出土しており、集落の性格の一部を示すものとして注目される。その他時期不明の木棺墓と思われる長方形土坑も検出されている。

地区の南西端では横穴石室墳（14 号石室）が検出された。南東方向に開口する石室で、同遺跡で見つかった中でも比較的残りがよく、また使用石材も大きなものを用いている。封土・天井石は確認できなかった。玄室部と羨道部閉塞施設を検出でき、溶岩製の敷石をもつ玄室床面が羨道部より一段低く、羨道の石積みも徐々に上がっていくことから、竪穴系横口式石室に分類される。

石室は溶岩の塊石を用いて構築されており、奥壁に用いられた最大の石材は幅が 1.1m を測る。左側壁は 3 段目までの石材が残存しており、高さは最高で 1.1m を測る。玄室長 3.55m、幅は奥壁側で 1.25m、中央部 1.55m、玄門部 1.58m を測り、やや胴張状を呈す。

玄門部前面の閉塞は塊石を用いて 2 重に積まれており、複数回の埋葬があったことが窺われる。玄室内からは坏・高坏・甕などの須恵器、鉄刀・鉄鏃・刀子等の鉄製品の他、石製紡錘車が出土しており、一部の須恵器は玄門横に積み重なるように出土した。出土状況から内部は攪乱されているものの追葬時に片付けが行われたことが推定される。

【J 地区】

ここでも多くの遺構や遺物包含層が検出された。調査区の中央部で検出された谷状地形部分を除くと全域から多数の土坑及び柱穴を検出し、南半部では古墳時代後期の竪穴住居跡 2 棟を検出した。焼土を

伴うもので、方形の平面形をもつ2棟が重複している。J地区の南端部は稲葉川に向かって大きく落ちていくが、その部分でも多くの遺物が出土している。

両地区とも南北に細長い調査区であったため、検出された柱穴からは明確な掘立柱建物の復元はできていない。両地区から出土した遺物は、古墳時代後期及び奈良時代から平安時代のものが主体を占め、緑釉陶器や土馬なども含んでいる。わずかに縄文時代、弥生時代の遺物も出土している。

3 まとめ

今回の調査で、南構遺跡がさらに東側に広がることが確認され、古墳時代後期には北側に墓域、南側に集落域が広がること、奈良時代から平安時代になると、全域に集落が広がることが追認された。縄文時代・弥生時代の遺構は確認できていないが、わずかに出土する遺物からは、北半部のI地区よりは南半部のJ地区側に中心があることが窺われる。

また、今回検出された14号石室は残存状態が比較的よく、石材も大型のものを使用しており、当地方で類例の増加している竪穴系横口式石室の一類型を示す好資料といえる。

奈良時代から平安時代にかけては、須恵器・土師器の坏や皿、緑釉陶器の椀・皿などの供膳具の他、土師器の甕・鍋・竈や須恵器甕などの調理・貯蔵具も多く出土している。但し、一般の集落の性格に留まらず、今回出土した朱墨の付着した転用硯をはじめ、これまでに出土している陶硯、皇朝十二銭、銚帯などの出土品から、官人の在住が考えられ、延暦23年(804年)の移転記事に見られる第2次但馬国府との関連性が推測できる。



I地区全景（南西から）



J地区全景（北から）



14号石室

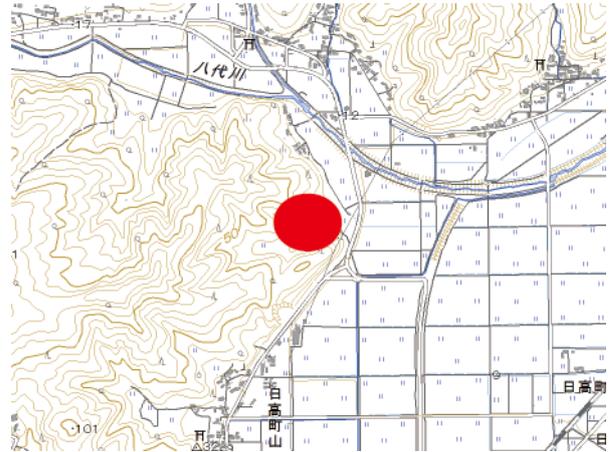


朱墨用転用硯出土状況

おおきだに
1 4 大木谷古墳群

所在地 豊岡市日高町山本
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局
 豊岡河川国道事務所
 事業名 一般国道483号北近畿
 豊岡自動車道日高豊岡南道路
 担当者 別府洋二・山田清朝・
 藤原怜史・森田昇太郎
 種別 本発掘調査
 期間 平成29年8月28日

～平成30年1月31日



遺跡の位置（「江原」）

面積 4439 m²

(A地区 3975 m²・B地区 441 m²・C地区 14 m²・D地区 9 m²)

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所は、豊岡市日高町山本において一般国道483号北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路の建設を行っている。当該事業地は、大木谷古墳群として周知されており、平成25年度に行われた確認調査の結果、数基からなる古墳群であることが明らかとなったため、今回発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査地は、A地区からD地区の4地区からなる。なお、古墳の番号については、豊岡市教育委員会との協議に基づき、調査で明らかとなった順に付けていった。

【A地区】

17基の古墳(2号墳～18号墳)が検出されている。

2号墳 平面長方形をなす方墳である。山側をカットし、ここで生じた土砂を盛り上げて造られている。ただし、盛土の大半が削平され、埋葬施設は残存していなかった。このため、時期の特定も困難である。

3号墳 平面長方形をなす方墳である。基底部からの高さ1.60mを測り、その1/2以上が盛土によって構築されている。埋葬施設は2基検出されている(第1主体部・第2主体部)。2基の主体部は、ほぼ南北方向に軸を取り、並列された状態で検出されている。いずれも木棺を埋葬したもので、第1主体部の棺底からは鉄剣・鉄刀各1本が副葬されていた。第2主体部では、副葬品の出土は認められなかった。

この他、第1主体部と第2主体部の中間の墳頂部で、須恵器の甕1個体が墳丘上に据えられた状態で出土している。この甕の特徴から、5世紀代の古墳と考えられる。

4号墳 平面長方形をなす方墳である。基底部からの高さ1.40mを測り、その1/2以上が盛土によって構築されている。埋葬施設は6基検出されている(第1主体部～第6主体部)。6基の埋葬施設は、切り合い関係が認められ、数次にわたり埋葬されたものと考えられる。いずれも木棺が埋葬されている。特に、第4主体部の棺底部からは、鉄刀1本(長さ85cm)と鉄鏃約10本が副葬された状態で出土している。

副葬品から時期を特定することはできないが、墳丘斜面から出土した土師器の高坏の小片から、4世紀代まで遡るものと考えられる。

5号墳 径7mの円墳である。基底部からの高さ90cmを測り、最大で35cmの盛土が認められた。埋葬施設は1基で、墓壙が検出されている。木棺が埋葬されていたものと考えられるが、その痕跡を確認することはできなかった。副葬品が出土していないため、時期を明らかにすることはできない。

6号墳 径7mの円墳である。埋葬施設は木棺1基が埋葬されていた。副葬品は出土していないが、10号墳に切られているため、4世紀代まで遡る古墳である。

7号墳 円墳と考えられるが、周溝の一部を検出したにとどまる。このため、埋葬施設も検出されていない。周溝内などから土器が出土していないため、時期を明らかにすることはできない。

8号墳 径7mの円墳と復元されるが、周溝の一部を検出したにとどまる。木棺を埋葬した埋葬施設がわずかに残存していた。副葬品は出土していないが、周溝内からは土師器の壺が出土しており、この土器から4世紀前半の古墳と位置付けられる。

9号墳 径4m～6mの円墳と復元される。地山を掘り込む形で、木棺を埋葬した埋葬施設がわずかに残存していた。ただし、副葬品が出土していないため、時期を明らかにすることはできない。

10号墳 南北20m、東西15mの長方形墳である。今回調査を行った古墳の中では、最大規模の古墳である。西側から南側にかけて、断面U字形の溝によって区画されている。西側の最深部で80cmを測る。

埋葬施設は3基検出されている(第1主体部～第3主体部)。第1主体部は、南北4.30m、東西3.30mを測り、3段に掘り込まれていた。最深部には、割竹形木棺が納められ、その周囲は小礫により固定されていた。棺底部には、鉄製の短剣が副葬されていた。この他、棺の上部からは、土師器の高坏・壺などが出土しており、棺を納めた後その上部に置かれたものと考えられる。これらの土器から、4世紀前半の古墳と位置付けることができる。

第2主体部は、墓壙を検出したが、埋葬施設を確認することはできなかった。第3主体部は、第1主体部の東側に並列した状態で検出されている。墓壙の平面形は、南北方向で4.15m、東西方向で2.20mを測る。墓壙内部には、割竹形木棺が納められていたが、副葬品の出土は認められなかった。

11号墳 平面形は方形に近い形態をなす。その規模は4m×5mと、今回の調査で明らかとなった古墳の中では最小規模である。墳丘中央部で木棺を主体とする埋葬施設1基を検出している。しかし、副葬品は認められず、周囲からも土器の出土は認められなかったため、時期を明らかにすることはできない。

12号墳 半円形の平坦面を造り、木棺1基が納められていた。副葬品は出土せず、時期を明らかにすることはできないが、8号墳の墳裾を削平していることから、8号墳より新しい時期と考えられる。

13号墳 西側から南側にかけて、断面逆台形をなす溝によって区画されている。その規模は、南北7m、東西6mを測り、平面形は長方形をなす。埋葬施設は、墳丘中央部で木棺墓が1基検出されている。副葬品は出土していないが、周溝内から出土した須恵器の甕から、5世紀から6世紀に位置付けられる。

14号墳 尾根側を直線的な溝で区画し、その東側に5基の埋葬施設が造られていた(第1主体部～第5主体部)。第4主体部を除いては木棺が納められ、ほぼ同じ場所でわずかに位置をずらしながら順次掘られていた。特に、第2主体部には舟形木棺が納められていた。

第4主体部については、組み合わせ式の石棺を埋葬施設としていた。底部を除いては、板状の砂岩により構築されていた。棺内には、副葬品は認められなかった。

第5主体部については、当墳のなかで最初に設けられた埋葬施設である。底部がわずかに残存し、径

2・3cm大の小石からなる礫床が認められた。明確な副葬品は認められなかったが、礫床直上から平底をなす土師器の小片が出土している。この土器の特徴から、弥生時代末期まで遡る可能性が考えられる。

15号墳 14号墳の墳裾に浅い直線的な溝が掘られ、西側の境としている。墳丘は認められず、平面半月形をなす。主体部は2基検出されている(第1主体部・第2主体部)。

第1主体部は、木棺を納めたもので、棺内には枕に転用された土師器の鼓形器台が置かれていた。第2主体部は、箱形石棺を埋葬施設とするものである。蓋石3石、小口側各1石、側壁各2石からなる組み合わせ式の石棺である。棺内からは、副葬品は出土していない。

第1主体部から出土した土器から、4世紀前半の古墳と位置付けられる。

16号墳 17号墳の西側で検出された古墳である。弧状をなす溝が検出されたのみである。

17号墳 A地区東端部で検出された古墳である。山側斜面をカットし、古墳の西側を区画している。

埋葬施設として、竪穴式石室1基が検出されている。石室上面のレベルがほぼ一定していること、石室内に上層から落ち込んだ土器が出土していることから、板材の蓋が架けられていたものと考えられる。石室内床部には径2～3cm大の円礫が敷かれていた。その直上から、鉄刀と鉄製刀子が副葬された状態で出土している。石室内に落ち込んだ土器から、当墳は6世紀代後半の古墳と考えられる。

18号墳 10号墳裾部を切る溝と平坦面を検出したが、埋葬施設を検出することはできなかった。

【B地区】

1号墳の1基が検出されている。径13mを測る円墳で、山側をカットし、ここで生じた土砂を盛り上げて造られている。盛土の高さは、最大で約1.50mを測る。埋葬施設は、横穴式石室1基からなる。しかし、後世の破壊・盗掘を受け、石室の大半は残存していなかった。このため、石室内において、副葬品は全く検出されなかった。残存する石材から、石室の規模は4.8m×1.2mと復元される。また、石室の構築に使用された石材は、神鍋山を起源とする溶岩が用いられていた。

このなかで、墓道から玄門部にかけて比較的良好に残存していた。墓道は、入口から玄門部まで残存し、北西方向に開口している。玄門部と石室の境には框石が置かれ、石室側が墓道より低くなり、約20cmの段差が認められた。玄門部においては、石室を閉塞した石が積み上げられた状態で検出されている。この閉塞石の上部から、須恵器の杯蓋・杯・高坏がまとまって出土している。これらの遺物から、当墳は6世紀後半と位置付けることができる。

【C地区・D地区】

A地区の南東側の古墳の有無を確認するためにおこなった調査である。それぞれ幅1mのトレンチを設定し、調査を行った。調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

3 まとめ

調査の結果、大木谷古墳群は4世紀前半から6世紀にかけてほぼ継続して造られた古墳群であることが明らかとなった。

4世紀前半の古墳としては、8号墳・10号墳・14号墳・15号墳が挙げられる。また、6号墳・11号墳の周濠が10号墳の周濠に切られていることから、両墳についてもほぼ同時期のものと考えられる。4号墳についても、複数の埋葬施設が認められることから、当該期に位置付けられるものと考えられる。また、14号墳において最初に造られた第5主体部については、弥生時代末まで遡る可能性が考えられる。

続く時期の古墳としては、3号墳が挙げられ、5世紀代と考えられる。最後に、1号墳と17号墳が

6世紀後半に位置付けることができる。

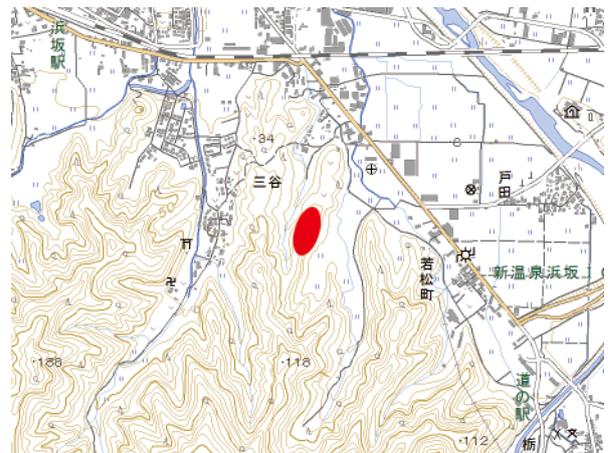
以上の明らかとなった古墳のなかで、1号墳と17号墳で明らかとなった石室が注目される。1号墳については、その特徴から竪穴系横口式石室に分類されるものである。また、17号墳の石室については、板材を蓋としていたようである。いずれも、在来の埋葬施設では認められないものである。したがって、両埋葬施設については、外来系の被葬者が考えられる。両墳とも6世紀後半に位置付けられ、立地が古墳群の形成された尾根の最低所である点も共通している。



調査区全体図

15 和泉谷・津原古墳群

所在地	美方郡新温泉町
事業者名	新温泉町
事業名	新温泉町新残土処分場整備事業
担当者	岸本一宏・西山昌孝
種別	本発掘調査
期間	平成29年5月9日～9月22日
面積	1,989 m ²



遺跡の位置（「浜坂」）

1 調査に至る経過

浜坂道路建設に伴うトンネル掘削残土の処分場が戸田字和泉谷地区に決定されたことに伴い、新温泉町教育委員会は埋蔵文化財の分布調査を実施した。その結果、遺構が存在する可能性がある判断された掘削予定の戸田・三谷にまたがる丘陵尾根について、平成28年に確認調査を実施した。この調査で古墳の埋葬施設や溝が検出され、10基の古墳が存在することが明らかになったため、新温泉町教育委員会と（公財）兵庫県まちづくり技術センターで調査区を分けて本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

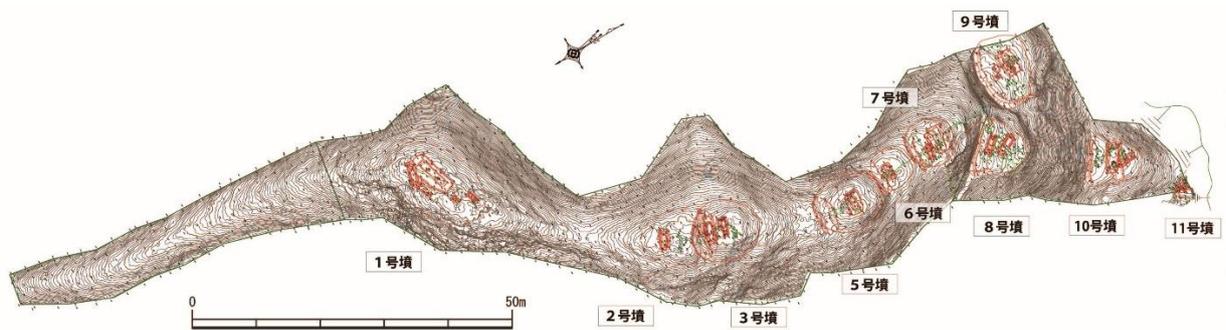
古墳群は浜坂海岸に近い丘陵尾根上に営まれており、丘陵尾根は細長く、平地から最高所までの比高が約45mで北方にのびている。調査箇所の高さは最高所で55m、北端の低い所では32mである。

調査区内には10基の古墳が残存しており、南から1～3・5～7号墳がセンター調査区内に、8～11号墳が新温泉町教育委員会調査区内に存在していた。なお、確認調査で4号墳とされていた段状平坦面は表土直下が岩盤となっており、埋葬施設は認められなかった。

古墳群は古墳時代前期中頃（4世紀前半）、中期末（5世紀末頃）、後期後葉（6世紀後葉）の3期にわたって、数十年から百数十年の間隔をあけて断続的に築造された古墳群であることが判明し、後期後葉の古墳群は新温泉町の調査区内のうち、北側調査区に限定して存在していた。

【古墳時代前期】

中期末の古墳と一部重複しており、1号墳、2号墳から3号墳下層の部分、5号墳下層、7号墳下層



調査区全体図

の4ヶ所で、それぞれ複数の箱形木棺墓を埋葬施設とし、小型のものも存在することから、小児から大人までを埋葬した家族墓の様相を示している。また、この時期の古墳は盛土による墳丘の明確化はしておらず、自然地形の高まり部分を利用していった。なお、1号墳の埋葬施設のうちSX101では、長さ約5.3mの木棺痕跡内の両端に近い棺底から合計3点の鼓形器台を転用した土器枕が発見され、1棺に3体を埋葬していたと判断できた。



1号墳の埋葬施設

【古墳時代中期末（須恵器TK47型式期）】

この時期には、尾根稜線上に築造された3号・5号～7号墳の4基の円墳があり、山側に弧状の区画溝を掘った円墳で、箱形木棺墓の単一埋葬となっていた。また、墳丘がよく残っていた3号・5号墳では、それぞれ副葬品の土師器・須恵器がまとまって出土した。

古墳時代中期末の古墳は、区画溝や盛土によって墳丘を明確にし、単一埋葬の主体部を有することが共通している。前代の集団墓的な様相から脱却した、個人の台頭を示しているものと思われる。

【古墳時代後期後半（須恵器MT85型式併行期）】

新温泉町教育委員会の発掘調査部分であるが、簡単に述べると、尾根稜線先端部の急斜面に築造されたもので、8号～11号墳の4基がある。それらは山側斜面を削って盛土をして階段状の平坦面を造成し、その部分に埋葬施設の木棺墓がそれぞれ等高線とほぼ平行方向に2～3基営まれていた。副葬品には須恵器や刀子のほか、管玉・算盤玉・土玉などの玉類が多く出土し、被葬者の頭にあたる部分で、須恵器2点が発見された木棺墓もあり、土器枕と判断されるものにあたる。

3 まとめ

本古墳群では、前期段階の墳丘は誇示せず、墳丘の範囲は明確にしていない。中期においては墳丘規模が6～9m程度の円墳であり、際立った規模や墳形とは言えない。副葬品においても、前期では剣やヤリガンナ・刀子に限られ、種類・量とも非常に少ない。また、古墳時代中期においても3号墳で土師器4点・須恵器片2点、5号墳で墓壇内に副葬された須恵器3点と、墳丘上の須恵器甕1点分、6号墳では刀と思われる鉄器が唯一出土したものの、7号墳と同様に須恵器片が出土したにとどまる。

このような副葬品の内容や墳形・墳丘規模からみて、地域を掌握した首長のような最上層クラスが被葬者ではなく、さらに下層の地域有力者層であったことが推定される。

1号墳のSX101やSX104で認められたような、土師器を被葬者の枕とする例は、古墳時代前期～中期を中心として、丹後地域から鳥取県までの日本海沿岸地域に認められるが、但馬では高坏を使用したものが大半となっている。また、鼓形器台を枕とした例は鳥取県で最も多く、丹後地域でも6例以上認められるが、但馬では豊岡市内に2例程度とごく少数に限られる。このことから、古墳時代前期の但馬西端地域では、葬法に関する習俗として、地理的に近い鳥取県の影響を受けていたと推定される。

1号墳のSX101で判断したような、1棺複数埋葬の例は、人骨の遺存例が多い箱式石棺墓で確認できるものが多く、3体以上も認められる。しかし、人骨が遺存しにくい木棺墓では、土器枕の存在や副葬品の位置により2体を埋葬したと判断される例がいくつか発見されているにすぎない。本古墳群の大型木棺墓SX101のように3体埋葬が確認されたことは、石棺墓と同様に他の木棺墓にも3体以上が埋葬されているものがあると推定できる根拠として重要である。

16 宮ノ谷遺跡

所在地 洲本市上加茂
 事業者名 兵庫県淡路県民局洲本土木事務所
 事業名 (主) 洲本五色線
 上加茂バイパス整備工事
 担当者 村上泰樹・中川渉・上田健太郎・
 垣内拓郎
 種別 本発掘調査
 期間 平成29年8月1日～9月1日
 面積 290㎡



遺跡の位置（「都志・洲本」）

1 調査に至る経過

事業地の周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地である「里池遺跡」「バベの森遺跡」があり、また昭和53年度の圃場整備事業に伴う確認調査の成果からも、用地内に遺跡の存在が予想された。そこで県教育委員会が当年度の4月～6月に確認調査を行った結果、遺構・遺物を検出し、本発掘調査の実施に至った。

2 調査の概要

14世紀後半から15世紀前半頃にかけて造成された平坦地には、複数の区画溝と建物群が存在していた。平坦地の外周は溝（SD01）で区画され、内側に南北18m、東西9m以上の平坦面を確保している。さらにその中央で東西方向の溝（SD04）によって、南北8mの平坦地（北）と、南北9.5mの平坦地（南）に分割される。平坦地は、多量の焼土・炭化物を含む層に覆われており、柱穴の大半はこの層の下で検出した。

平坦地（北）には60箇所以上の柱穴が密集しており、掘立柱建物の建造が繰り返された状況を示している。その他、石敷き遺構（SX01）や、土坑（SK07）などの土坑数基を検出した。平坦地（南）にも40箇所近い柱穴があり、掘立柱建物を複数回建て直していることが分かるが、柱穴の密度は平坦地（北）に比べて格段に少ない。

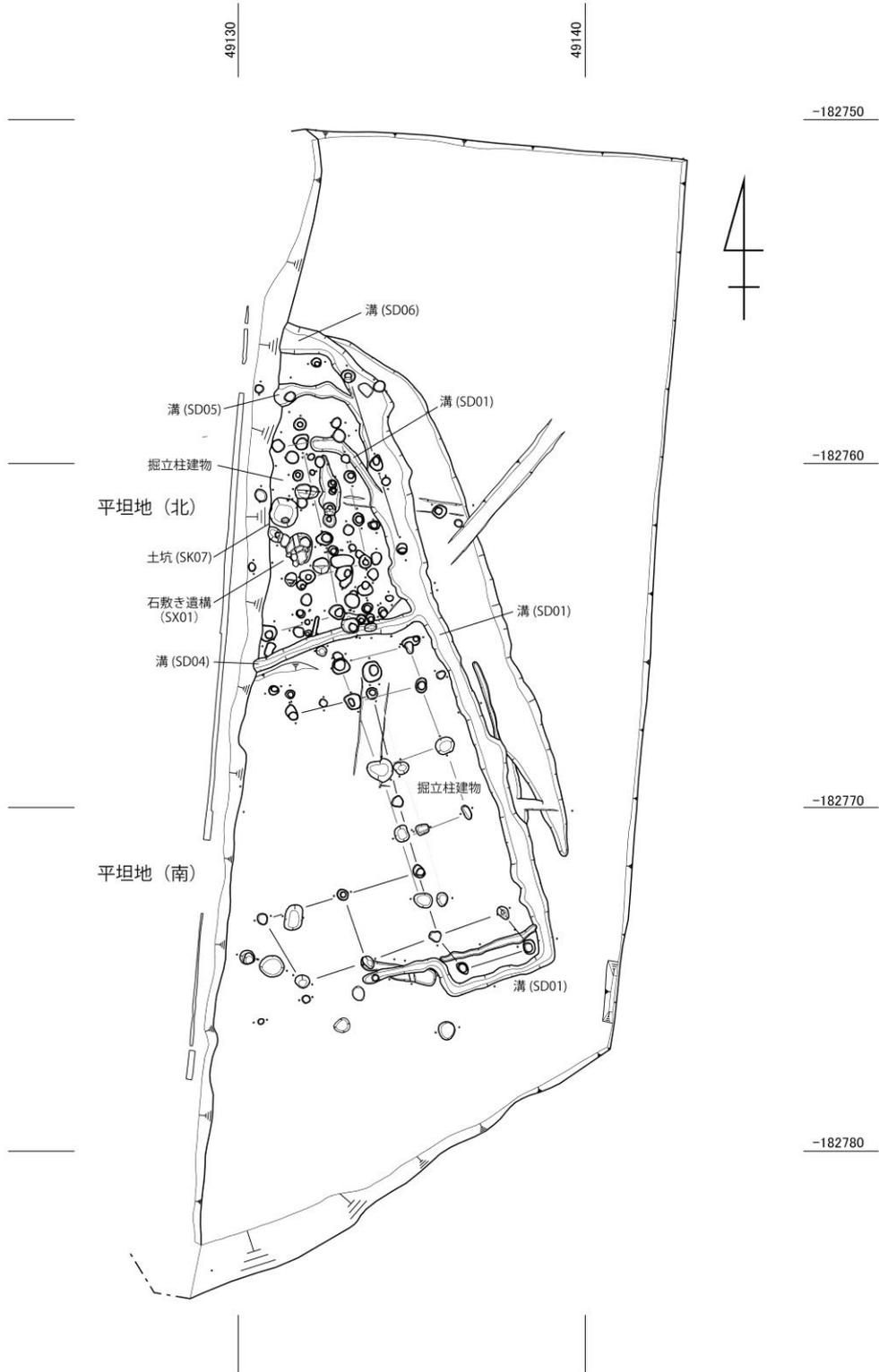
3 まとめ

遺構が見つかったのは非常に狭い範囲であるが、周辺は圃場整備を受けており、本来の遺跡の広がりや不明である。遺構の存続期間は限定的で、その間に火災に会いながらも集中的に建物が複数回更新された様子がうかがえる。

調査地西方の上加茂には賀茂神社、東方の下加茂には加茂神社が存在しており、中世に遡る集落の一角であったと考えられる。



調査区全景（北西から）



調査区全体図

第3章 出土品整理事業の概要

出土品整理については全て（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託し、兵庫県立考古博物館及び同魚住分館にて作業を行った。実施した作業は水洗い、ネーミング、接合・補強、復元、実測、写真撮影、図面補正、トレース、レイアウト、保存処理、分析鑑定、報告書印刷であり、このうち写真撮影と分析鑑定についてはまちづくり技術センターから専門業者に委託して実施した。

また平成29年度よりトレース、レイアウトのデジタル化を本格的に実施し、作業の効率化を図った。出土品整理を実施した事業は下表のとおり18件であり、内訳は国事業5件、県事業6件、NEXCO西日本事業3件、市町事業4件である。このうち5件については最終年度として発掘調査報告書を刊行した。

	事業者	事業名	遺跡名	報告書 冊番号	
1	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	175号西脇北バイパス事業	津万遺跡群3		
2	国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	一般国道483号北近畿豊岡自動車道八鹿 豊岡南道路	尼ヶ宮古墳群	第498冊	
3			西垣古墳群・岩谷古墳群		
4			広瀬古墳群		
5			南構遺跡		
6	兵庫県北播磨県民局 加東土木事務所	(砂) 宮前東谷川公共通常砂防事業	宮前鋳山跡		
7	兵庫県西播磨県民局 龍野土木事務所	(主) 太子御津線社会資本整備総合交付金 事業	鍛冶田遺跡		
8	兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所	(砂) 稲塚川災害関連緊急砂防事業	稲塚窯跡		
9	兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所	(主) 洲本灘賀集線(阿万バイパス) 道路 改良事業	井手田遺跡	第499冊	
10	兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所	(二) 志筑川水系志筑川広域河川改修事業	大円道向遺跡		
11	兵庫県淡路県民局 姫路土木事務所	(二) 船場川河川改修事業	竹ノ前遺跡		
12	姫路市	姫路駅周辺地区総合整備事業(キャストイ 21)	豆腐町遺跡・駅前町遺跡		
13			神屋町遺跡		
14			姫路駅周辺土地区画整理事業	姫路駅周辺遺跡群	
15			姫路駅周辺地区総合整備事業(駅ビル)	豆腐町遺跡	
16	西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神兵庫事務所	新名神高速道路 箕面～神戸間(兵庫県 域) 建設工事	観音寺跡・広根遺跡2	第495冊	
17			石道才谷・堂ノ後遺跡	第496冊	
18			日下部遺跡	第497冊	

第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

1 事業の概要

平成29年度より、市町教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を支援するために、「市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業」を開始した。この事業は発掘調査量の増加に伴う人員の不足や、経験の少ない職員の技能向上など、市町教育委員会が抱える課題に対して支援をおこなうものである。事業は（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が県教育委員会文化財課・県立考古博物館との連携・協力のもと実施した。

2 発掘調査の支援

【概要】

市町が実施する発掘調査について、センターが現場運営・監理業務を受託し、支援をおこなう事業である。センター職員は「支援調査員」として、発掘現場における掘削、測量、写真撮影の各業務をおこなうとともに、市町職員の技術指導をおこなった。

【平成29年度実施事業】

淡路市の委託を受け、1件の事業を実施した。調査は淡路市教育委員会の若手職員とセンターのベテラン職員が共同で行い、淡路市職員の技能向上を図りながら調査が円滑に進行するよう現場運営・監理を行い発掘調査の支援を行った。

事業名	平成29年度生田大坪地区遺跡発掘調査に係る発掘調査支援業務
遺跡名	杭田遺跡（淡路市生田大坪地区）、畦田遺跡（淡路市生田大坪地区）
起因事業	経営体育成基盤整備事業（兵庫県淡路県民局洲本土地改良事務所）
委託者	淡路市
調査期間	平成29年8月28日～11月24日（50日間）
調査面積	杭田遺跡 986㎡、畦田遺跡 11㎡
調査概要	<p>【杭田遺跡】</p> <p>焼土塊を投棄した遺構や土器・石器を集中して含む良好な遺物包含層が検出された。出土した土器はおおむね弥生時代中期末に比定されることから、杭田遺跡が弥生時代中期末の集落遺跡であることが明らかになった。</p> <p>【畦田遺跡】</p> <p>今回の調査区に近接して確認されていた弥生土器を含む包含層が、調査区内には及んでいないことが判明した。確認されたのは2時期の棚田造成に伴う盛土のみであり、出土した近世陶磁器から、上層の盛土造成時期は江戸末期、下層は江戸中期まで遡る可能性が指摘できる。</p>

3 市町職員研修

【概要】

市町等の埋蔵文化財担当職員の資質向上をはかるため、兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・センター埋蔵文化財調査部の連携により、業務の遂行に必要な知識・技術に関する研修及び発掘調査成果連絡会を実施した。

【埋蔵文化財担当職員研修（基礎研修）】

日 時 平成29年9月7日（木）～8日（金）
 対 象 採用後概ね5年以内の市町等埋蔵文化財担当職員
 会 場 兵庫県立考古博物館 体験学習室3
 参加者 28名

	テーマ	講師
講義1	埋蔵文化財調査の目的と意義について	柏原正民（兵庫県教育委員会文化財課主幹）
講義2	埋蔵文化財関連法規及び国庫補助事業について	永恵裕和（兵庫県教育委員会文化財課技術職員）
講義3	埋蔵文化財発掘調査計画の策定	中川 渉（兵庫県立考古博物館埋蔵文化財課長）
講義4	埋蔵文化財包蔵地の把握と周知について	上田健太郎（兵庫県立考古博物館主査）
講義5	試掘・確認調査結果の解析について	村上泰樹（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任技術専門員）
講義6	文化財保護行政の現状と課題	山下史朗（兵庫県教育委員会文化財課長）

【埋蔵文化財調査成果連絡会】

日 時 平成29年12月1日（金）
 対 象 市町等埋蔵文化財担当職員
 会 場 兵庫県立考古博物館 講堂
 参加者 80名

	テーマ	講師
報告1	神戸市：住吉宮町遺跡第52次調査の成果について	石島三和（神戸市教育委員会）
報告2	淡路市：舟木遺跡の調査成果について	高田大地（淡路市教育委員会）
報告3	加西市：吸谷廃寺跡の塔心礎跡の発見について	永井信弘（加西市教育委員会）
報告4	兵庫県：鍛冶田遺跡の発掘調査成果について	久保弘幸（（公財）兵庫県まちづくり技術センター）
講演	埋蔵文化財調査における三次元情報の応用	金田明大（奈良文化財研究所）
報告5	PhotoScanによる3次元オルソ画像の作成と活用事例	藤藪勝則（（公財）和歌山市スポーツ文化財団埋蔵文化財センター）
報告6	詳細分布調査での把握-写真測量による横穴式石室の略測-	山中良平（赤穂市教育委員会）

第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

1 現地説明会の開催

発掘作業の現場で現地説明会を開催し、発掘現場を体感する機会を提供している。平成29年度は9遺跡で現地説明会を開催し、延べ620名の方が参加した。

遺跡名	所在地	開催日	参加者数
小垣谷古墳群	豊岡市	平成29年7月22日(土)	30名
和泉谷・津原古墳群	新温泉町	平成29年8月26日(土)	70名
宗佐遺跡	加古川市	平成29年9月23日(土)	200名
小垣谷遺跡	豊岡市	平成29年10月15日(日)	50名
宗佐遺跡	加古川市	平成29年11月23日(木・祝)	30名
大木谷古墳群	豊岡市	平成29年12月3日(日)	80名
音谷1号墳	朝来市	平成30年1月13日(土)	35名
前田遺跡	姫路市	平成30年2月12日(月・祝)	70名
池ノ下遺跡	姫路市	平成30年2月17日(土)	15名
福井池の下遺跡	相生市	平成30年2月24日(土)	40名
合計			620名



宗佐遺跡



和泉谷・津原古墳群

2 GENBAビューイングの開催

ICT機器を活用して、発掘調査現場と県立考古博物館を中継し、リアルタイムで双方向による質疑応答を行うなど、発掘調査の状況を体感できるGENBAビューイングを(公財)兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と県立考古博物館の共催により実施した。

平成29年度は8月(豊岡市小垣谷遺跡・加古川市宗佐遺跡)と12月(豊岡市大木谷古墳群)の2回実施した。

遺跡名	所在地	開催日	参加者数
小垣谷遺跡	豊岡市	8月30日(水)	50名
宗佐遺跡	加古川市		
大木谷古墳群	豊岡市	12月3日(日)	50名
合計			100名



3 発掘調査速報会の開催

平成29年度に実施した発掘調査成果の発表、討論会を行うなど、最新の調査成果を広く県民に公開するための発掘調査速報会を開催した。

主催 (公財) 兵庫県まちづくり技術センター・県立考古博物館

日時 平成30年3月11日(日) 13:30～16:40

会場 兵庫県立考古博物館 講堂

参加者数 83名

プログラム:

【調査成果の発表】

- ・小垣谷遺跡・小垣谷古墳群(豊岡市)ー古墳時代の墳墓と平安時代の集落ー
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部 藤原怜史
- ・宗佐遺跡(加古川市)ー奈良時代の大型建物ー
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部 新田宏子
- ・和泉谷・津原古墳群(新温泉町)ー古墳時代の墳墓ー
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部 岸本一宏

【発表遺跡にかかる討論】

和田晴吾兵庫県立考古博物館館長及び発表者

4 ひょうごの遺跡の刊行

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターでは、埋蔵文化財情報誌「ひょうごの遺跡」96号・97号を刊行し、最新の発掘調査の成果を公開した。

「ひょうごの遺跡」96号(平成29年11月10日発行)

- ・3時期にわたり断続的に営まれた古墳群ー和泉谷・津原古墳群(新温泉町)
- ・2本の刀が副葬された箱式石棺ー小垣谷古墳群(豊岡市)
- ・14基目の石室を発見ー南構遺跡(豊岡市)
- ・大きな建物と赤いすずりー宗佐遺跡(加古川市)
- ・発掘調査あれこれ①地面と対話するための道具

「ひょうごの遺跡」97号（平成30年3月9日発行）

- ・大型の無袖式石室墳－音谷1号墳（朝来市）
- ・多様な埋葬施設をもつ古墳群－大木谷古墳群（豊岡市）
- ・但馬国府近くの小さな谷の集落－小垣谷遺跡（豊岡市）
- ・市町埋蔵文化財調査支援事業はじめました－杭田遺跡・畦田遺跡（淡路市）
- ・発掘調査を生中継～GENBAビューイング～
- ・発掘調査あれこれ②発掘調査で大活躍！はたらく車

5 バックヤード見学ツアーの開催

県立考古博物館と（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の共催で、収蔵庫・整理室など博物館の舞台裏を見学するツアーを開催した。

	実施日	参加人数		実施日	参加人数
第1回	平成29年5月14日（日）	13名	第5回	平成29年8月23日（水）	15名
第2回	平成29年6月11日（日）	31名	第6回	平成29年8月30日（水）	22名
第3回	平成29年7月26日（水）	3名	第7回	平成29年9月10日（日）	17名
第4回	平成29年8月9日（水）	12名	第8回	平成30年3月28日（水）	5名



平成 29 年度埋蔵文化財調査年報

発行日 平成 30 (2018) 年 10 月 1 日

編集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 - 1

TEL 079-437-5589 FAX 079-437-5599

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>
